

## 平成24年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成24年12月7日（金）16：15～17：45

場 所：高知大学朝倉キャンパス 総合教育棟2階会議室1

議 題：

### 1. 平成25年度SPOD事業について

- ・平成25年度SPOD事業計画（案） 【資料1-1】
- ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（案） 【資料1-2】
- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費 【参考資料1】

### 2. 平成25年度SPOD内講師派遣について

- ・平成25年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案） 【資料2-1】
- ・平成25年度SPOD内講師派遣プログラム概要（案） 【資料2-2】
- ・SPOD研修講師一覧掲載用原稿 【資料2-3】

### 3. SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定について

- ・SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（SPOD-SDC）の認定について 【資料3-1】
- ・スタッフ・ポートフォリオ（岸岡 洋介） 【資料3-2】
- ・SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの名称付与基準について 【参考資料2】

### 4. SPODホームページの改修について

- ・SPODホームページの改修について（案） 【資料4】

### 5. 平成24年度SPOD活動報告書について

- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（冊子版）構成案 【資料5-1】
- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（HP掲載用）構成案 【資料5-2】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」平成23年度 活動報告書 目次 【参考資料3】

6. 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び  
FD/S D分科会の開催について
- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び  
FD/S D分科会 実施要項（案） 【資料6】
7. 平成24年度SPOD事業評価委員会の開催について
- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）  
事業評価委員会実施要項（案） 【資料7】
  - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会要項  
【参考資料4】
  - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿 【参考資料5】
8. 各コア校で実施する新任教員研修について
- ・第18/19回愛媛大学授業デザインワークショップアンケート集計結果 【資料8-1】
  - ・教育力開発基礎プログラムアンケート集計結果 【資料8-2】
  - ・第3回「よりよい授業のためのFDワークショップアンケート」集計結果 【資料8-3】
  - ・新任教員FDワークショップアンケート集計結果 【資料8-4】
  - ・第18/19回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項 【参考資料6】
  - ・教育力開発基礎プログラム実施要項 【参考資料7】
  - ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」実施要項 【参考資料8】
  - ・新任教員FDワークショップ案内チラシ 【参考資料9】
9. 次世代リーダー養成研修について
- ・次世代リーダー養成研修（第4回）実施要項 【資料9】
10. 平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修について
- ・平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）  
アンケート集計結果 【資料10】

## 平成25年度SPOD事業計画（案）

※赤字：平成24年度事業からの追加・変更事項      ※青字：前回協議会からの修正事項

1. FD事業 ※実施内容の詳細及び研修実施時期は、「研修プログラムガイド2013」参照

- ・新規採用教員研修（年5回） 開催場所：各コア校 ※愛媛大学は2回実施
- ・FDファシリテーター（FD担当者）養成研修（年1回） 開催場所：徳島大学
- ・ファカルティ・ディベロッパー（FDer）養成研修（年1回）  
開催場所：京都市内 共催：大学コンソーシアム京都，日本高等教育開発協会（予定）  
※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）の事業として実施
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年3回）
  - ①全加盟校教員対象（年2回）  
開催場所：東四国－香川大学または徳島大学 西四国－愛媛大学  
共催：大学評価・学位授与機構（予定）
  - ②高専対象（年1回）  
開催場所：愛媛大学 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（年1回）  
開催場所：愛媛大学または徳島大学  
共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ（年1回）  
開催場所：愛媛大学 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校  
研修プログラムガイド2013掲載したプログラム，派遣事業プログラム

2. SD事業 ※実施内容の詳細及び研修実施時期は、「研修プログラムガイド2013」参照

- ・講師養成プログラム（年2回） 開催場所：愛媛大学1回，コア校1回  
平成25年6月中旬・平成26年2月中旬  
※主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年4回） 開催場所：愛媛大学
  - レベルⅠ 1回 5月，10月中旬
  - レベルⅡ 1回 9月中旬
  - レベルⅢ 1回 7月上旬
  - ※主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・学務系職員養成プログラム（年2回） 開催場所：愛媛大学
  - レベルⅠ 1回 7月中旬
  - レベルⅡ 1回 8月下旬 ※SPODフォーラム2013において開催
  - ※主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学  
※主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・次世代リーダー養成プログラム（年8回）  
平成24年度受講者対象 4回，平成25年度受講者対象 4回  
開催場所：徳島県，愛媛県，高知県，**関西**  
第1回 5月下旬 愛媛  
第2回 7月下旬 **関西**  
第3回 11月上旬 **徳島**  
第4回 平成26年1月下旬 高知  
※主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学
- ・高等教育トップリーダーセミナー（年1回） 開催場所：愛媛大学  
SPODフォーラム2013で実施  
※主担当：SPOD事務局 協力校：香川大学
- ・スタッフ・ポートフォリオの開発  
ワークショップをSPODフォーラム2013で実施
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校  
研修プログラムガイド2013掲載したプログラム，派遣事業プログラム

### 3. SPODフォーラム

- ・平成25年8月20日（火）～23日（金）  
開催場所：愛媛大学  
全体テーマ「ポートフォリオ（TP, SP, LP）による教育の質向上（仮）」  
※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）と共催

### 4. SPOD共通事業

- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26回）  
ただし，短期大学及び短期大学部が併設されている4年制大学については，あわせて1回とする。詳細は，研修プログラムガイド2013に掲載  
開催場所：各加盟校
- ・遠隔専用セミナー「SPODチャンネル」の配信
- ・調査研究プロジェクト事業（年3回）
  - ①高等教育教授能力証明プログラム検討ワーキンググループ（FD部門）
  - ②連携効果検証ワーキンググループ（FD部門）
  - ③組織変容検証ワーキンググループ（FD部門）
  - ④学生調査・IRワーキンググループ（FD部門）
  - ⑤連携効果検証ワーキンググループ（SD部門）

## 5. SPOD運営

- ①総会（年1回） 平成26年3月頃
- ②ネットワークコア運営協議会（毎月）
- ③事業評価委員会（年1回） 平成26年3月頃
- ④監査（年1回） 平成26年3月頃
- ⑤その他
  - i. FD／SD分科会
    - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成26年3月頃）
    - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成26年3月頃）
  - ii. SPOD加盟校県内会議
    - ・徳島県内（随時）
    - ・香川県内（随時）
    - ・愛媛県内（随時）
    - ・高知県内（随時）

## 平成25年度SPOD内講師派遣プログラム一覧

No.	区分	プログラム名	担当講師				
			徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南高専
1	FD	学生の学びを促すシラバスの書き方	宮田,吉田	葛城	小林,秦,佐藤,山田,仲道	塩崎,立川,俣野	
2	FD	グラフィック・シラバスの作成方法 ※H25新規			佐藤		
3	FD	大人数講義を魅力的にするテクニック	川野	葛城,佐藤	小林,佐藤,山田		
4	FD	基礎から学ぶ学習評価法	宮田	佐藤	佐藤,山田	塩崎,俣野	
5	FD	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	香川		小林,秦,佐藤,山田	塩崎,立川,俣野	
6	FD	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法 ※H25新規				立川	
7	FD	クラスルームコントロール ※H25新規			秦		
8	FD	授業に活かせる理解と記憶の教育学 ※H25新規			佐藤		
9	FD	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは? ※H25新規		岩中	佐藤	塩崎,立川,俣野	
10	FD	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～ ※H25新規			仲道		
11	FD	効果的なeラーニングの活用方法 ※H25新規			仲道		
12	FD	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	宮田,香川		秦,佐藤,山田		
13	FD	授業アンケートを見直しませんか?～アンケートの効果的実施と活用方法～			秦,佐藤,山田	塩崎,立川,俣野	
14	FD	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	香川		小林,秦,佐藤		
15	FD	学生が輝くFDの実践事例	宮田		小林,佐藤,山田	塩崎,立川,俣野	
16	FD	高専生を元気にする学生指導法のコツ					坪井
17	FD	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～ ※H25新規					坪井
18	SD	大学職員のための企画力養成講座			秦,阿部,米澤,仲道		
19	SD	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座 ※H25新規			秦,仲道,阿部		
20	SD	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～			秦,阿部,米澤		
21	SD	持続可能なSDプログラムの開発手法			秦,阿部,米澤		
22	SD	人事人材育成ビジョンの必要性			秦,阿部,米澤		
23	SD	職員が輝くSDの実践事例			秦,阿部,米澤		
24	FD・SD	教職員のためのPowerPoint～分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方～ ※H25新規				立川	
25	FD・SD	教育の質保証と学習成果アセスメント ※H25新規			山田		
26	FD・SD	学習ポートフォリオ入門～学習活動のリフレクション～ ※H25新規			秦,山田		
27	FD・SD	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	吉田	葛城,佐藤	秦	塩崎,立川	
28	FD・SD	FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～	徳島県内担当	香川県内担当	愛媛県内担当	高知県内担当	

## 平成25年度SPOD内講師派遣プログラム概要

No.	区分	プログラム名	内容概要
1	FD	学生の学びを促すシラバスの書き方	シラバスは、授業デザインの基礎であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容、スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、学生の時間外学習を促す事例も紹介します。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
2	FD	<b>NEW!</b> グラフィック・シラバスの作成方法	シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいないのも事実です。たとえ、学生が読んだとしても、教員が持つ背景知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。 グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容やキーワードを精選し、構造を明確化し、より円滑な流れで授業の再構成を行うことができます。 本プログラムでは、カナダ・マギル大学で、グラフィック・シラバスを作成した講師の経験をもとに、その意義や特徴を簡単に説明します。その上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書く個人ワークに取り組みます。ペア・ワークによるブラッシュアップを経て、再度、個人ワークに取り組みます。参加者は担当している授業のうち、どれか一つのシラバスを持参ください。
3	FD	大人数講義を魅力的にするテクニック	「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する(した気にさせる)講義、ということにします。本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。また大人数講義でも取り入れることが可能な、簡単な参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。
4	FD	基礎から学ぶ学習評価法	本プログラムでは、学習評価の基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のための評価ツール、について学びます。これまでの自己の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
5	FD	学生が動く・変わる・生き活きるグループワークの進め方	グループワークを取り入れた参加型授業形式を取り入れる大学教員が増えています。一方、グループ毎に取組みに差が生じる、グループ内での作業に個人ごとの偏りがあるなど、実施にあたっては課題もあります。本プログラムでは、様々なグループワークの事例を紹介しながら、上手な進め方や成功するためのコツを学びます。参加者は実際にグループワークを体験しながら学習することができます。受講後は、現状よりも活発なしかけができるようになることを目指します。
6	FD	<b>NEW!</b> 教えないで成績を上げるTBL (チーム基盤型学習)という授業方法	教えても教えても成績が上がらない。そんな悩みはありませんか？ TBL:チーム基盤型学習には次のような特徴があります。正しい知識をたくさん身につけてもらいたい授業に最適です。グループワークで授業を進めるのに、20チームあっても教員1人で回せます。協同学習の要素を取り入れた仕掛けがあるため失敗しにくく、グループワークの経験が少ない教員でも無理なく導入できます。予習が前提で、単位の実質化ができます。何より受講生が元気になり、グループワークのための様々な能力を目覚めさせます。こんな授業を一度体験してみませんか？
7	FD	<b>NEW!</b> クラスルームコントロール	「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかけ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。

No.	区分	プログラム名	内容概要
8	FD	<b>NEW!</b> 授業に活かせる理解と記憶の教育学	新しい教育方法としてアクティブ・ラーニングが推奨されています。しかしながら、単に学生を活動に参加させるだけでは、アクティブ・ラーニングにはなりません。一方、様々な制約から講義法で授業を教えなければならないこともありますが、講義法においても、アクティブ・ラーニングを取り入れることは可能です。行動だけではなく思考においてもアクティブに学習させるためには、人間の認知のメカニズムを踏まえた、授業設計を行う必要があります。本プログラムでは、2011年に実施したSPOD内教員ニーズアンケートでも要望の高かった、「理解と記憶」に関わる心理学等の理論を、どのように授業に活用できるのかを学習します。理解する、記憶する、忘却するとは、どういうことなのか。さらに理解や記憶を促し、忘却させない授業を設計するための工夫について考えます。具体的には、理解に関するレクチャーをベースに適宜ペアワーク、グループワークを入れ込みながら進めていきます。
9	FD	<b>NEW!</b> 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	やる気(学ぶ意欲)は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲームの要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有したいと思います。本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、参加者の皆さんは、自分の授業において学生のやる気を引き出すためにどのような工夫を行っているのかを箇条書きにしたメモをご持参ください。
10	FD	<b>NEW!</b> 学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～	本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけするための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。
11	FD	<b>NEW!</b> 効果的なeラーニングの活用方法	高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみよう」「eラーニングをどのように活用することが有効なのかを知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかわからない」などという方に対して、実際に授業で活用されている様々なeラーニング事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。
12	FD	マンネリ化しない公開授業の秘訣 ～公開授業の効果的実施方法～	公開授業は、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。
13	FD	授業アンケートを見直しませんか？ ～アンケートの効果的実施と活用方法～	授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。開催校のアンケートを持参いただければ、項目の検討を行うワークを入れることができます。
14	FD	ティーチング・ポートフォリオ入門 ～教育実践のリフレクション～	本プログラムでは、ティーチング・ポートフォリオとは何かについて基本的な内容を学んでいきます。具体的には、ティーチング・ポートフォリオが、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つかといった必要性和有効性について、また、ティーチング・ポートフォリオ作成のための要点と手順について学ぶ機会を設けています。ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ参加予定の先生方は事前準備として活用いただけます。
15	FD	学生が輝くFDの実践事例	本プログラムでは、FDの意義・定義、歴史・国際動向、FDの取組み事例、推進する上でのコツを説明します。また国内外の優れた取組み事例、組織体制を紹介します。希望に応じて所属機関のFDに関するコンサルティングやニーズ分析を行います。本格的なFDの取組みはこれからという導入時期に最適なプログラムです。

No.	区分	プログラム名	内容概要
16	FD	高専生を元気にする学生指導法のコツ	成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育方針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。
17	FD	<b>NEW!</b> 担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	心の揺らいでいる学生に、まず寄り添うのは、担任教員です。担任教員は、学生サポートのために次のことを始めとする様々なスキル(意識、知識と能力)を求められます。担任教員に必要な基礎的スキルを整理して時系列に整理することにより、教員団の教育力向上に資することを目指します。 数年の担任経験を有し、担任スキルの高度化と共有、校内での教育連携の必要性を感じている教員を対象とするワークです。 ・学生との接し方    ・自殺や不登校、いじめのサイン    ・教育連携の方法    ・保護者対応    ・奨学金 ・休学時の手続き    ・授業料納付期限、除籍    ・高等学校卒業程度認定試験    ・ハラスメント    ・危機管理フロー
18	SD	大学職員のための企画力養成講座	大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方ももちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もご参加ください。
19	SD	<b>NEW!</b> 若手・中堅職員のための 判断力・決断力養成講座	判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思いませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならぬ場面は多々あります。 あなたはどのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。また一方で、決定しやすい判断が良い判断とは限りません。 このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力スキルの向上を図ります。 当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。
20	SD	スタッフ・ポートフォリオ入門 ～職員と大学が共に輝くために～	スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールのことです。本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。 スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に重要なこととは何でしょうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムとなっています。
21	SD	持続可能なSDプログラムの開発手法	SDとは事務系職員の能力開発活動であり、人材開発から始まって、組織の活性化、組織の業績向上、最終的には大学等の特性として地域の活性化と結びついていくものです。SDには、職場の中で仕事に就きながら仕事に即して教育するOJT(職場内教育)と職場から一定期間離れてまとまった教育をするOFF-JT(職場外教育)があり、意図的、計画的、持続的に実施しなければならない。本プログラムはそのプログラム開発のための手法を学ぶ作業を行います。
22	SD	人事人材育成ビジョンの必要性	本プログラムは、SPODに加盟する各大学の人事・人材開発の担当職員に対して、各大学にふさわしい人事マネジメントシステムを効果的に機能させ、職員一人ひとりが優れた人材に育っていくための基本的な人材育成ビジョン開発の手法を理解することができます。

No.	区分	プログラム名	内容概要
23	SD	職員が輝くSDの実践事例	SDを担当する者にとって、職場内能力開発の基本的な知識が必要です。しかしながら、高等教育関係者がこうした基本的な内容を学ぶ機会には限られています。そもそも職場における能力開発は何のために行うのか。どのような類型があるのか。企画、実施、評価というサイクルをどのように回していけばよいのか。そして、機能的な能力開発組織をどう構築したらよいのか。こうした基本的な内容を学び、日々の実践を見直します。 本プログラムでは、機能的な能力開発組織(SD担当部局)の事例や、組織的な能力開発体系の事例も学びながら、高等教育機関において、どのように組織的に能力開発を進めていけばよいのかを考えます。
24	FD SD	<b>NEW!</b> 教職員のためのPowerPoint ～分かりやすい話の組み立て方・ 資料作成・分かり易い話し方～	使えたと便利なんだろうけど、いまいち効果的に使えそうな気がしないんだよね～・・・と二の足を踏んでいませんか？ パワーポイントなどのスライドウェアは授業でプレゼンテーションする教員はもちろん、意外に使えたと職員の皆さんにも便利なツールです。何かをプレゼンテーションすることを前提に、一連の流れを体験してみましょう。プレゼンテーションするには構想、資料作成、発表練習の3段階がありますが、あまりにも資料作成に時間をかけるあまり、効果的なプレゼンに結びつかない人が非常に多いです。プレゼンで失敗しないために三つのステップで何をやっておかなければならないか、一度体験してみましょう。
25	FD SD	<b>NEW!</b> 教育の質保証と学習成果アセスメント	学習成果測定は、教育の質保証に関する国際的動向の中で喫緊の課題として注目されています(例えば、OECDのAHELO等)。国内では中教審による「学士力」や日本学術会議による「分野別の教育課程編成上の参照基準」等が提起され、急速にアウトカムに基づく学士課程教育の体系化が求められています。しかし、国内外ともに学習成果の測定は概念の曖昧さも含めて十分に議論や実践が成熟しているとは言えない状況です。同時に、その測定方法も多様で、唯一の解は存在しません。そこで、自らの所属する機関の特性・文脈を踏まえつつ、学生調査などを始めとして様々な観点から学習成果の測定に関する多様な実践を蓄積し検証していく必要があります。 本プログラムでは、そうした学習成果測定をめぐる議論を概観し、いくつかの事例やワークを踏まえて、所属組織において望ましい学習成果測定の手段や活用方法について共に深めていきたいと思います。
26	FD SD	<b>NEW!</b> 学習ポートフォリオ入門 ～学習活動のリフレクション～	近年の大学教育改革において、学びを通じて得た様々な力を可視化するための手段の一つとして「学習ポートフォリオ」が注目されています。学生が在学中に経験したこと、身につけたもの(学習の成果)を紙媒体あるいは電子媒体(e-ポートフォリオ)によって蓄積していきます。学生はこの作業によって自らの学びを振り返り、意味づけ、自身の目標ややるべきことを明確にするとともに、就職時などにも活用することが可能になります。教職員にとっては、多様な学修履歴をもつ学生個々人の特性を踏まえて指導にあたることができるとともに、対外的な評価に対する教育成果(エビデンス)としても示すことができます。 本プログラムでは、こうした学習ポートフォリオの概論(特徴や事例等)を踏まえて、所属組織において望ましい学習ポートフォリオの作成や活用方法について共に深めていきたいと思います。
27	FD SD	学生の自立を促す学生支援の実践と コツ	学内での学生生活活動の中心となるリーダー育成や学生同士によるピア・サポートが新たな学生支援として注目を浴びています。四国内でもそのような取り組みが盛んにおこなわれており、それらの事例と教職員がどのように関与していけば良いのかのコツの紹介を複数大学の事例紹介を織り交ぜながら進めます。必要に応じ、取り組みに関与している学生の生の声も聞けるようにいたします。教職員だけでなく、学生を巻き込んだ総合的な研修となっています。
28	FD SD	FD・SDを効果的に進める組織づくり ～事例紹介とお悩み相談～	FD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等を行いながら、開催校の事例紹介を基に、FD・SDを効果的に進めるための相談に柔軟に対応します。FD・SDに取り組んでいるがマンネリ化してきた、担当者が行き詰っているなどの課題がある場合に、最適なプログラムです。教職員全員を対象とするよりも、管理職やFD・SD担当者等との小規模のディスカッション形式が向いています。

<氏名 (よみがな) >

岩中 貴裕 (いわなか たかひろ)



<職名>

香川大学 大学教育開発センター 准教授

<経歴>

岡山大学教育学部中学校教員養成課程英語教育専攻卒業。同大学院教育学研究科英語教育専攻修了(教育学修士)。姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語領域修了(言語教育学修士)。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科単位取得退学(学校教育学博士)。神戸女子大学瀬戸短期大学英語科助手、神戸女子短期大学総合生活学科講師、同准教授を経て現職。

<資格等>

博士(学校教育学)(兵庫教育大学乙第62号)

中学校教諭専修免許状(英語)・高等学校教諭専修免許状(英語)・日本語教員資格取得(姫路獨協大学大学院 第55号)

<SPOD内講師派遣で担当可能なプログラム名>

「学生の心に火をつける授業とは?～学習意欲の教育学～」

<実績>

これまでに講師を担当したFDプログラム(2009年度以前は省略)

2010年度

SPOD フォーラム講師(学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは)

香川大学新任教員研修講師(様々な授業方法)

香川大学FDスキルアップ講座講師(協同学習の基本)

2011年度

香川大学FDスキルアップ講座講師(協同学習の基本)

2012年度

SPOD フォーラム講師(学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは)

香川大学新任教員研修講師(様々な授業方法)

英語授業ワークショップ講師(英作文の授業で使えるテクニック)

香川大学FDスキルアップ講座講師(協同学習の基本)(予定)

<ひとこと>

アメリカのルイジアナ州出身の牧師・作家・教育者である William Arthur Ward (ウィリアム・アーサー・ワード) は述べています。

The mediocre teacher tells.

凡庸な教師は指示をする。

The good teacher explains.

良い教師は説明をする。

The superior teacher demonstrates.

優れた教師は範となる。

The great teacher inspires.

偉大な教師は内なる心に火をつける。

専門は外国語教育(第二言語習得)です。どうすれば学生の心に火をつけることができるのかを自らの課題として考えるようになって、約10年の月日が流れました。今も試行錯誤の日々を送っています。様々な背景を持った学生が大学に入学してくるようになり、私たち大学教員も意識改革を求められています。微力ですが四国内の大学の教育力向上のために頑張らせていただきます。一緒に成長していきましょう!

## SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (SPOD-SDC)の認定について

### 1. 認定対象者

愛媛大学教育学生支援部教育企画課能力開発室 岸岡 洋介

### 2. 認定理由

申請のあった岸岡はSPOD事業開始時に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の特定研究員(特任助教)として採用され、平成23年4月からは教育企画課能力開発室の室員(職員)として業務を遂行している。

同人は、SPOD事業におけるFDプログラムの開発、実施を担当していた。特にFDの実践として愛媛大学のELS(愛媛大学リーダーズスクール)で秦教授のもと学生指導を行っている。職員となった平成23年4月からもこの活動は継続しているが、一方でSPODの講師養成研修を受講し、その成果としてSDプログラムの講師(担当:リーダーシップ入門)を務めるなど、SD活動にも積極的に関わってきている。

また、今年度愛媛大学が実施した「FD・SDセミナーin東北」では、すでにSDCとして認定されている秦、阿部、米澤とともにSDC養成講座の講師としてスタッフ・ポートフォリオにおけるメンタリングを担当した。

さらに、仙台地区SD研修会(仙台地区の私立大学職員40名が受講)では、「SDプログラムの開発手法の習得」の講師(担当:SDプログラム開発ワーク)も務めている。

同人は、教員と職員というキャリアを活かし、他の職員が担当するSPOD-SDプログラム(学務系プログラム)についても、準備段階から支援している。

以上のとおり、同人はSPODにおけるSDCの名称付与基準を満たしているため、SPOD-SDCとして認定するものである。

### 3. SPOD-SDC認定の参考書類

- ・スタッフ・ポートフォリオ

平成24年度

## 愛媛大学スタッフ・ポートフォリオ

氏名	岸岡 洋介(きしおか ようすけ)		
住所	〒790-8577 松山市文京町3番 〒791-8005 松山市東長戸4-3-1東長戸宿舎3棟441		
所属・職名	教育学生支援部 教育企画課 能力開発室 室員		
最終学歴・卒業年	九州大学 人間環境学府 行動システム専攻(博士課程) 平成19年10月単位取得退学(取得学位:教育学修士)		
職歴	年月日	職歴	
	H12.04	トランス・コスモス株式会社 入社	
	H12.07	トランス・コスモス株式会社 退社	
	H19.11	愛媛大学 教育学生支援部 特定職員 採用	
	H20.04	愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特定研究員 採用	
	H22.04	愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特任助教 採用	
H23.04	愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 能力開発室 特定職員 採用		
	現在に至る		
研修歴	年月日	年月日	研修名・研修内容
	H19.11.18		「アイスブレイク100連発」講師:青木将幸(神戸)
	H20.01.26	H20.01.27	「プレゼンの達人になるセミナー」講師:田中省三(大阪)
	H20.05.10	H20.05.11	大学行政管理学会研究グループ活動(北海道)
	H20.05.24	H20.05.25	日本高等教育学会(仙台)
	H20.06.07	H20.06.08	大学教育学会第30回大会(東京)
	H20.07.19	H20.07.20	「授業デザインワークショップ」(愛媛県広田村)
	H20.07.26		「プレゼンの達人セミナー」講師:田中省三氏(大阪)
	H20.08.20	H20.08.22	大学行政管理学会 研究合宿(湯布院)
	H20.08.26		「FDスキルアップ講座:授業コンサルテーション体験」(学内)
	H20.09.06	H20.09.07	大学行政管理学会第12回定期総会・研究集会(東京)
	H20.09.09		「FDスキルアップ講座:聴覚障害者に対応した授業方法」(学内)
	H21.06.06	H21.06.07	大学教育学会第31回大会(東京)【発表】
	H21.06.19		社会人基礎力講演 講師:羽根拓也(株式会社アクティブラーニング)(愛媛)
	H21.07.31	H21.08.01	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(学内)
	H21.09.05	H21.09.06	大学行政管理学会第13回定期総会・研究集会(京都)【発表】
	H21.09.09		SPODフォーラム「教員主導・学生主体の授業の進め方」受講(学内)
	H22.06.05	H22.06.06	大学教育学会第32回大会(愛媛)【発表+運営主体】
	H22.09.04	H22.09.05	大学行政管理学会第14回定期総会・研究集会(東京)【発表】
	H22.09.14	H22.09.15	第39回サークルリーダー研修会(学内)【講師】
	H22.09.16	H22.09.18	ELS 学生リーダーズ・サマースクール(学内)【講師】
	H23.05.20		スタディ・スキル講座(学内)【講師】
	H23.06.01	H23.06.03	SPOD講師養成研修(愛媛)
	H23.06.04	H23.06.05	大学教育学会第33回大会(東京)【発表】
	H23.06.10		プロジェクト・マネジメント講座(学内)
	H23.06.24		スタディ・スキル講座(学内)【講師】
	H23.07.14		ELSクイックセミナー(学内)【講師】
	H23.08.23	H23.08.26	SPODフォーラム(愛媛)【事業運営】
	H23.09.03	H23.09.04	大学行政管理学会第15回定期総会・研究集会(金沢)【発表】
	H23.11.11	H23.11.13	ファカルティ・ディベロッパ―養成研修(東京)
	H23.12.13		スタディ・スキル講座(学内)【講師】
	H23.12.22		ELSクイックセミナー(学内)【講師】
	H24.02.03		講師養成研修「プレゼンテーション入門」(愛媛)
H24.03.02		ELSラーニングBAR(愛媛)	
H24.05.18		講師養成研修「ビジネスマナー」(愛媛)	
H24.05.26	H25.05.27	大学教育学会第34回大会(北海道)	
H24.06.02	H24.06.03	中国四国地区大学教育研究会(広島)【シンポジウム登壇】	
H24.07.19		ELSクイックセミナー(学内)【講師】	
H24.08.01		公開シンポジウム「学習意欲を高める授業とカリキュラムのデザイン」(愛媛)	
H24.08.22	H24.08.24	SPODフォーラム(徳島)	
H24.09.08	H24.09.09	大学行政管理学会第16回定期総会・研究集会(東京)【発表】	
H24.09.12		第41回サークルリーダー研修会(学内)【講師】	
H24.10.19		大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベル1)【講師】	

	H24.11.03 H24.11.15 H24.11.24 H24.12.01	H24.11.06	FD・SDセミナーin東北(東北)【講師+運営】 武田大作氏(五輪選手)によるリーダーシップ・セミナー(学内) 大学教育学会2012年度課題研究集会 (島根) 「学生FDのWA!!!!」ファンリテーション研修 (京都)
免許・資格等	年月日	免許・資格の種類	
	H8.11.15 H13.04	普通自動車免許(2011年 中型限定解除試験に合格) 日本サッカー協会公認C級ライセンス	
発表等	年月日	内 容	
	H21.06.06	【発表】「学生リーダー養成プログラムの現状と課題-愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)を事例として-」, 大学教育学会, 『大学教育学会第31回大会』, 首都大学東京	
	H21.09.06	【発表】「学生リーダー養成プログラムの現状と課題-ELSを事例として-」, 大学教育学会, 大学行政管理学会, 『大学行政管理学会第13回定期総会・研究集会』, 立命館大学	
	H22.06.05	【発表】「批評的態度の養成に関する一考察～学生リーダー養成プログラムを事例として～」, 大学教育学会, 『大学教育学会第32回大会』, 愛媛大学	
	H22.07.22	【講師】「モチベーション入門」, 愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS), 『クイックセミナー』, 学内	
	H22.07.23	【講師】「リーダーシップ論&実践Ⅰ」, 「リーダーシップ論&実践Ⅱ」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『次世代リーダー養成研修』, 高知大学	
	H22.08.08	【講師】「学生同士が学びあう関係作りの支援～ピア・グローウイング・コミュニティを形成するために～」, 愛媛大学『愛媛大学SD研修』, 愛媛大学	
	H22.08.25	【講師】「学生から学ぶ学生相談のコツ」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『SPODフォーラム』, 愛媛大学	
	H22.08.26	【講師】「学生同士が学びあう関係作りの支援～ピア・グローウイング・コミュニティを形成するために～」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『SPODフォーラム』, 愛媛大学	
	H22.08.27	【講演】「愛媛大学リーダーズ・スクールについて」, 中国・四国大学保健管理研究集会, 『第40回 中国・四国大学保健管理研究集会 教育講演』, 愛媛大学	
	H22.09.05	【発表】「批評的態度の養成に関する一考察～学生リーダー養成プログラムを事例として～」, 大学行政管理学会, 『大学行政管理学会第13回定期総会・研究集会』, 国学院大学	
	H22.09.15	【講師】「Lesson2.人材育成論-リーダーシップ」, 愛媛大学, 『第39回サークルリーダー研修会』, 大洲青少年交流の家	
	H22.09.17	【講師】「リーダーシップ入門-リーダーとリーダーシップ」, 4大学(島根大学、山口大学、愛媛大学、高知大学)間共同事業, 『平成22年度学生リーダーズ・サマースクール』, 松山市野外活動センター	
	H23.05.20	【講師】「レポート入門」, 愛媛大学, 『スタディ・スキル講座』, 学内	
	H23.06.04	【発表】「大学教育におけるリーダーシップ養成に関する考察—批評的振り返りに焦点を当てて—(共同発表)」, 大学教育学会, 『大学教育学会第33回大会』, 桜美林大学	
	H23.06.24	【講師】「読み方 中級」, 愛媛大学, 『スタディ・スキル講座』, 学内	
	H23.07.14	【講師】「モチベーション入門」, 愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS), 『クイックセミナー』, 学内	
	H23.09.04	【発表】「教職員能力開発拠点(教育・学生支援機構教育企画室)における教職協働の事例紹介(共同発表)」, 大学行政管理学会, 『大学行政管理学会第15回定期総会・研究集会』, 金城大学	
	H23.12.13	【講師】「読み方 中級」, 愛媛大学, 『スタディ・スキル講座』, 学内	
	H23.12.22	【講師】「モチベーション入門」, 愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS), 『クイックセミナー』, 学内	
H24.07.19	【講師】「モチベーション入門」, 愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS), 『クイックセミナー』, 学内		
H24.08.23	【講師】「後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『SPODフォーラム』, 徳島大学		

H24.08.24	【講師】「若手・中堅職員のためのコーディネータリカ養成講座」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『SPODフォーラム』, 徳島大学
H24.09.09	【発表】「大学間連携による継続的リーダーシップ育成に関する取組」(共同発表), 大学行政管理学会, 『大学行政管理学会第16回定期総会・研究集会』, 芝浦工業大学
H24.09.12	【講師】「Lesson2 リーダーシップとコミュニケーション」, 愛媛大学, 『第39回サークルリーダー研修会』, 大洲青少年交流の家
H24.10.19	【講師】「リーダーシップ入門」, 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD), 『大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベル1)』, 愛媛大学
H24.11.03	【講師】「SDコーディネーター(SDC)養成講座-メンタリング講座 担当-」, 教職員能力開発拠点, 『FD・SDセミナーin東北』, 岩手大学
H24.11.04	【講師】「SDプログラムの開発手法の習得-SDプログラム開発ワーク 担当-」, 三大学(東北学院・尚絅学院・宮城学院)中堅・若手職員SD研修会実行委員, 『仙台地区SD研修会』, 東北学院大学
H22.4月	【論文】岸岡洋介, 山内一祥, 泉谷道子, 平尾智隆「学生生活の満足度を決定する要因-学生生活状況調査データの分析」, 愛媛大学, 大学教育実践ジャーナル第8号, pp9-15
H22.3月	【論文】秦敬治, 泉谷道子, 山内一祥, 久保研二, 岸岡洋介「学生リーダーシップ養成とスチューデント・アシスタント活用に関する考察-学生支援とピア・エデュケーションの観点から-」, 独立行政法人日本学生支援機構学生生活部, 『学生支援の現状と課題-学生を支援・活性化する取り組みの充実に向けて-』, pp.67-75
H23.3月	【報告書】秦敬治, 岸岡洋介, 岡田準郎, 泉谷道子「学生リーダーシップ養成と課外活動支援に関する考察-学生リーダーシップ養成と課外活動を取り巻く環境の現状分析-」, 独立行政法人日本学生支援機構学生生活部, 『大学等における学生支援取組状況調査研究プロジェクトチーム報告書』, pp.79-91
H23.3月	【論文】泉谷道子, 岸岡洋介, 秦敬治「大学教育におけるリーダーシップ養成に関する考察-批評的振り返りに焦点を当てて-」, 大学教育学会, 『大学教育学会誌第33巻』, pp.88-95

## 未来予想図

### 【成長記録】(過去)

- ①高等教育政策に関する知識を習得し, 説明できるようになった
- ②学内あるいは学外におけるFD・SD研修を企画・運営できるようになった
- ③学生リーダー養成のための知識・スキルを身につけることができた
- ④SPODにおけるSD研修の企画・立案ができるようになった

### (2012年度)

- ①文部科学省からの補助金事業の事務を任せてもらえた
- ②数々のSD研修等を行うことで, 学内・学外に多くの職員とネットワークを持つことができた
- ③ビジネスマナー・プレゼンテーションの講師としてのスキルを学んだ
- ④SPODフォーラムで講師を務めることができた
- ⑤愛媛大学における10年の教育改革をまとめた『教育改革の歩み』編集に携わることができた

### 【今】

教育企画課能力開発室の室員として, 学内・学外におけるFD, SDの企画・運営に携わる。10月からは, 文部科学省補助金事業である「大学間連携共同教育推進事業-西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム-」の事務担当者として, 連携する9大学・1短大との調整等に携わる。常に, 学生の成長のために支援できることを意識しながら, 教員も職員も関係なく教職協働で取り組める環境にやりがいを感じながら仕事を楽しんでいる。

### 【今年のビジョン】

- ・教育企画課の一員として一人前になる
- ・助教時代に培ったスキルや職員になってから培ったスキルを活かして, 学生や職員に対して多くの研修を行う。

#### 【今年のゴール】

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター(SDC)を取得する。

#### 【MYビジョン】

(組織の一員として)

どの部署に配属されたとしても、「学生の成長を支援している」という感覚を見失わず、常に高等教育政策の動向を把握できるようなネットワークを持つこと。また、SD研修等で学んだ知識・スキルを活かし、職員の能力開発のお手伝いをする。将来的には、大学マネジメントにも精通し、「愛媛大学の職員と言えば岸岡だ」と言われるくらいの大学を代表できる人材に成長すること。学内においても、職員の見本となるような人材に成長すること。学生の笑顔が絶えない大学の環境を作りあげること。

(個人として)

「教育もできる職員」としての立場を確立すること。自らの原点である大学サッカーに指導者として関わり続け、全国大会での優勝を目指すこと。部活動の指導者としてのノウハウを職場内におけるSDに活かすこと。

#### 【MYゴール】

(組織の一員として)

SPOD-SDCの上級資格である教職員能力開発拠点におけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター(SDC)を取得すること。そのために必要な知識・スキル・態度を身につけるための自己研鑽を続けること

(個人として)

サッカーを通して学生の成長に関わり続けるとともに、学生と、教員、職員が集えるような場を提供し続けること。

## 2012年の記録

- ①教職員能力開発拠点におけるSDC資格認定要項の改訂を行った
- ②理学部新入生を対象とした理学部合宿研修を企画する学生スタッフに「モチベーション」セミナーを実施した
- ③平成24年度の教育コーディネーター研修会の運営統括を行った
- ④愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)受講生に対するクイックセミナー「モチベーション入門」の講師を2度務めた
- ⑤「中国四国地区大学教育研究会」におけるシンポジストとして登壇した
- ⑥SPODフォーラム2012「後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座」の講師を務めた
- ⑦SPODフォーラム2012「若手・中堅職員のためのコーディネート力養成講座」の講師を務めた
- ⑧第39回サークルリーダー研修会において「リーダーシップとコミュニケーション」の講師を務めた
- ⑨教育企画課に配属されたインターンシップ生の受け入れ担当者を務めた
- ⑩「大学間連携共同教育推進事業」の補助金申請書の作成に携わった。
- ⑪大学行政管理学会第16回定期総会・研究集会において「大学間連携による継続的リーダーシップ育成に関する取組」を共同で発表した
- ⑫SPODにおける大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベル1)において「リーダーシップ入門」の講師を務めた
- ⑬教職員能力開発拠点におけるFD・SDセミナーin東北「SDコーディネーター(SDC)養成講座」において「メンタリングのコツ」セミナーを担当した
- ⑭仙台地区SD研修会において「SDプログラムの開発手法の習得」の「SDプログラム開発ワーク」を担当した

## 職歴・業務内容・業績等

H19.11 (30歳)	<p><b>愛媛大学 教育学生支援部 特定職員として採用</b>          文部科学省学生支援GP「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)のカリキュラム・アシスタントとして勤務開始。すでにプログラムとしては始動していたELS2期生から授業運営や研修企画・運営に携わる(以降, ELSには関係し続けている)。学生が実施する個人セミナーや, リーダーズ読本執筆のサポートも行っており, 日々学生に囲まれた中で業務を行ってきた。</p>
H20.04 (31-33歳)	<p><b>愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特定研究員 採用</b>          引き続き, 愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)のカリキュラム・アシスタントとして勤務。ELSプログラムの充実を図るべく, 海外リーダーシップ研修の企画・運営, 新たなプログラム開発等を行うとともに, 学生へのリーダーシップ研修の充実を図るためのスキルアップを図ってきた。携わってきたELSの学生同士が卒業後に結婚まで到達し, 結婚式に呼ばれたことは忘れられない思い出である。</p>
H23.04 (34歳~)	<p><b>愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 能力開発室 特定職員 採用</b>          教育企画課に配属され, 全学のファカルティ・ディベロップメント(FD)の企画・運営や, 人事課との協働でスタッフ・ディベロップメント(SD)の企画・運営を行う。昨年, 全国的にも注目を集める愛媛大学の教育改革を整理した「愛媛大学教育改革の歩み」の編纂に携わることができたことは, 自らの業務の重みを再認識する上でも非常に役立った。また, 本年からは, 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業-西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」に採択されたことに伴い, 会計事務担当者として事業推進及び連携する9大学1短大との調整等が新たに業務として加わった。様々な大学との連携によって学生の成長を支援できるとあって, 非常にやりがいのある業務だと感じている。</p>

## 地域社会での活動等

活動等	
H12.07~ H21.03	<p>大学院進学時より, 母校である西南学院大学の体育会サッカー部のコーチとして携わり, 学生のチームワークや目標達成プロセス修得のための支援を行ってきた(現在は, 愛媛大学サッカー部コーチ)。また, 併せて, 西南学院大学OBらで運営する「特定非営利活動法人 西南フットボールクラブ」のコーチとして, 下は幼稚園から上は高校生年代まで, あらゆるカテゴリーに属する子供たちのサッカーの指導をしてきた。</p>
H15.04~ (継続中)	<p>上記「特定非営利活動法人西南フットボールクラブ」の理事として, 「サッカーを通じた健全な青少年の育成と向上」のためのサポートを行っている。</p>
H22.04~ (継続中)	<p>松山商業高等学校のサッカー部外部コーチとして, 愛媛大学サッカー部との合同トレーニングや合同合宿等を行っている。高校生が大学生と関わるメリットは, 大学生と関わることによる技術の向上や憧れの大学生像を描くことができること, 大学生が高校生と関わるメリットは, 技術は人に教えることによってさらに深みを増すことから, その実践を行えること, そして, 先輩感の醸成である。また, サッカーの指導だけではなく, 受験生のメンタリング等を行うことによって今後の進路選択のお手伝いを行っている。</p>
H24.08.11	<p>第47回松山まつり野球拳おどりに愛媛大学連の一員として参加。当日は, 地域の方々の声援をいただきながら, 教職員・学生総勢50名が一体となって踊った。</p>
H24.04~ H25.03	<p>愛媛大学東長門宿舎における平成24年度の会計担当となり, 東長戸地区代表として地方祭に参加したりしている。</p>
得たもの	<p>自分の振る舞いが学生へも多大な影響を及ぼすことを考えると, あらゆる面で自己に立ち返り, 自己を振り返り, 襟を正すことが求められているように感じる。より良い環境を生み出そうと思う原動力にもなり, 周りに生かされていることを感じる。</p> <p>そう考えてみると, これら地域社会での活動(指導)は, 自分自身のライフワークである。</p>

# 私というひと

これまでの私	経験してきた業務	学生リーダー養成, 教育企画 (FD・SD)
	自分が専門と考える業務 (得意でない業務)	学生リーダー養成, 教育企画, 学生支援 (特に課外活動支援)
	語学力	英語 ( 1 (2) 3 4 5 )    その他の外国語 ( ) TOEIC                      点                      英語検定                      級
	趣味	車の運転、スポーツ
	特技	サッカー, 掃除, 料理
	ボランティア活動	サッカー指導 (H12～H24まで約13年間サッカー一部のコーチとして指導現場に携わる)
	感動経験・印象に残っている出来事	関わる学生の成長や頑張りを目にした時はいつも感動している
	健康状態	すこぶる健康
	長所	明るさ, 社交性, こだわりがない, ポジティブ
	短所	計画性がない, こだわりがない
今の自分	現在の職務 (エフォート)	補助金事業対応45%, 教育企画, 20%, 人材育成25%, SD10%
	心がけていること (工夫していること)	積極的に話しかけるようにしている
	現在の目標	スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (SDC) を取得すること
	将来の目標	愛媛大学の職員の見本となれるような人材となる, 大学を代表できるような人材となる
これからの自分	今後経験したい業務 (他大学, 文科省への異動希望)	学生支援 (特に, 課外活動支援)、他大学
	希望するエフォート (その理由)	
<p>(今の私があるのは)            大学時代に部活動を通して人間教育を実際に行ってくれた恩師, 大学院に入ってから人材教育とは何かと            いうことを教えてくれた恩師, そして実際の指導の現場で「人と付き合うこと」とはを, モデルとなって示して            くれる仲間の存在が強く影響している。</p>		
(家庭の特殊事情)		

## SPODホームページの改修について(案)

【改修案】※SPODトップページ



② 「SPODフォーラム」のバナー及びページを作成(次ページ参照)

① 「プログラムガイドを見る」のバナー及びページを作成

①「プログラムガイドを見る」のページ

【作成案】プログラムガイドを「関連資料を見る」調査・報告のページから分けて掲載する。



## ②「SPODフォーラム」のページ

【作成案】 SPODフォーラムの特徴，過去の概要，次回の案内を掲載する。  
フォーラムの申し込み時期には，申し込みフォームを掲載する。

TOP > SPODフォーラム

# SPODフォーラム SPOD FORUM

## SPODフォーラムとは？

大学・高専の教職員が自らの能力開発のために役立つ多種多様で質の高いFD／SDプログラムならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。



## 次回開催概要

日時	平成23年8月23日(火)～26(金)
場所	愛媛大学城北キャンパス
主催	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク／愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
参加対象者	高等教育機関の教職員、大学院生、学生
概要	シンポジウムの他、4日間で約80のFD／SDプログラムを実施予定
お問合せ先	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育企画課) 電話：089-927-9154 メール： <a href="mailto:spod@stu.ehime-u.ac.jp">spod@stu.ehime-u.ac.jp</a>

## SPODフォーラムの特徴

- 1. 多彩な講師陣**  
先進的な教育改革で知られる大学のトップリーダー、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえています。
- 2. 職場で使える実践型プログラム**  
講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムが数多く開講された。参加者は、意見を出し合い知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。
- 3. SDプログラムも多数開講**  
SPODでは、FD同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講した。教育改善に関心のある多くの教職員に参加を呼びかけた。

## 過去の概要

**SPODフォーラム2010【平成22年8月25日～28日開催】**  
▶ [写真集](#) ▶ [チラシ](#) ▶ [プログラム](#) ▶ [アンケート結果](#) ▶ [シンポジウム概要](#)

**SPODフォーラム2009【平成21年9月4日～8日開催】**  
▶ [開催概要](#) ▶ [写真集](#) ▶ [チラシ](#) ▶ [プログラム](#) ▶ [アンケート結果](#) ▶ [シンポジウム概要](#)

### ③関連資料を見る → 調査・報告のページ

【現在】 カテゴリー分けがされておらず、活動報告書等がまとめて掲載されている。  
※研修プログラムガイドについては、別ページに掲載する。



【改修案】 活動報告書, 調査研究プロジェクト, その他のカテゴリーに分けて掲載する。



#### ④加盟校専用のページ

【現在】 会議資料のみが掲載されている。



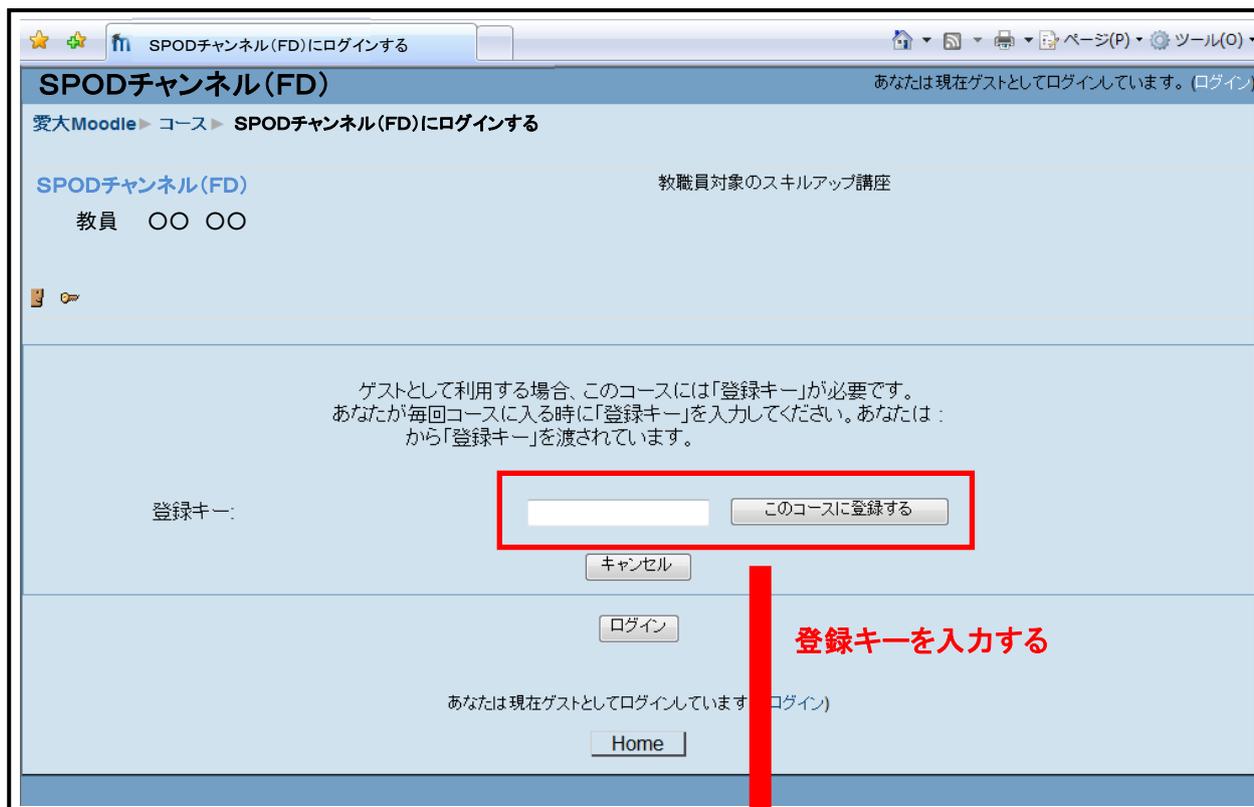
【改修案】 SPODチャンネルのページを追加し、加盟校限定で視聴できるようにする。



愛媛大学MoodleサービスにSPODチャンネルのページを作成し、リンクを張る。  
SPODチャンネルのページは次ページ参照。

### ⑤ SPODチャンネルのページ

【作成案】 FD, SDそれぞれのページを作成し、資料、映像等を掲載する。登録キーが必要となるので、あらかじめSPOD加盟校の事務担当者に伝えておく。



## 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

### 活動報告書（冊子版）構成（案）

はじめに → 企画・実施統括者（愛媛大学 佐藤准教授）

1. 会長挨拶 → 会長（愛媛大学 柳澤学長）

2. SPOD事業の概要 → SPOD案内チラシ

3. 平成24年度事業計画 → SPOD事業計画

4. 平成24年度全体総括 → 全体総括，研修プログラム一覧，遠隔システム配信校一覧

5. 平成24年度活動実績

（1）FDプログラム → 実施計画，実施内容／成果

（2）SDプログラム → 実施計画，実施内容／成果

（3）SPODフォーラム → SPODフォーラム2012の概要，受講者数，チラシ

（4）SPOD共通事業 → SPOD内講師派遣の概要，実施状況一覧，  
調査研究プロジェクトの概要

（5）SPOD運営 → 会議開催日程

6. 平成23年度事業評価委員会からの事業評価について → 評価とその対応，要項，名簿

7. 平成25年度事業について → 平成25年度SPOD事業計画（案）

参考資料

・規約

## 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

### 活動報告書（HP掲載用）構成（案）

はじめに → 企画・実施統括者（愛媛大学 佐藤准教授）

1. 会長挨拶 → 会長（愛媛大学 柳澤学長）
2. SPOD事業の概要 → SPOD案内チラシ
3. 平成24年度事業計画 → SPOD事業計画
4. 平成24年度全体総括 → 全体総括，研修プログラム一覧，遠隔システム配信校一覧
5. 平成24年度活動実績

(1) FDプログラム → 実施計画，実施内容／成果

①新任教員及び大学院生，ポスドク向け標準的（プレ）FDプログラムの開発，実施

- ・新規採用教員研修（5回）

→基準枠組対応表，基準枠組（4大学），新任教員研修（5回）の実施要項，アンケート結果

- ・プレFDプログラム（1回）

→教える仕事に就きたい大学院生のためのWS（1回）の実施要項，アンケート結果

②FDerの養成

- ・FDファシリテーター養成研修（1回）

→FDファシリテーター養成研修の実施要項，アンケート結果

③教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発

- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（3回）

→TPWSの実施要項，アンケート結果（3月開催の分は実施要項のみ掲載）

④各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施

- ・教育系外部資金獲得のためのワークショップの開発，実施（1回）

→プログラム概要，実施要項

(2) SDプログラム → 実施計画，実施内容／成果

①SDプログラムの開発，実施

- ・講師養成プログラム（2回） → 実施要項，アンケート結果

- ・大学人・社会人基礎力養成プログラム（レベルⅠ～Ⅲ）（4回）

→ 実施要項，アンケート結果

- ・学務系職員養成プログラム（レベルⅡ）（1回） → 実施要項，アンケート結果

- ・次世代リーダー養成プログラム（8回） → 実施要項
- ・高等教育トップリーダーセミナー（2回）  
→ 概要，アンケート結果（3月開催の分は概要のみ掲載）

②職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）の開発

- ・スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回）  
→概要，アンケート結果

(3) SPODフォーラム

- SPODフォーラム2012の概要，受講者数，チラシ，シンポジウム概要，  
アンケート結果

(4) SPOD共通事業 → 概要，SPOD内講師派遣の実施状況一覧，プロジェクトの概要

① SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26校）

- 研修プログラム一覧，プログラム概要一覧，アンケート結果（受講者），  
アンケート結果（担当者，2月末〆切で依頼）

② 調査研究プロジェクト

- プロジェクトの報告

(5) SPOD運営 → 会議開催日程

① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会，FD／SD分科会

- 総会及び分科会の実施要項

② ネットワークコア運営協議会 → 議事概要

③ 各県内加盟校会議 → 議事概要

6. 平成23年度事業評価委員会からの事業評価について

- 評価とその対応，要項，名簿

7. 平成25年度事業について

- 平成25年度SPOD事業計画（案）

参考資料

- ・規約

平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会  
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

- 主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）  
日時：平成25年3月下旬 11：00～15：30  
場所：（総会）愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール  
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージアム  
出席者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等  
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 11：00 各加盟校での取り組み状況の報告  
今後の具体的な事業の進め方について  
意見交換 など

12：00 閉会

【総会】

- 14：00 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長  
14：05 平成24年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の  
実施状況について  
14：30 平成25年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の  
運営について  
15：00 質疑応答  
15：30 閉会

---

○トップリーダーセミナー開催（案） ※総会終了後引き続き開催（会場：南加記念ホール）

※司会進行 佐藤 浩章（愛媛大学）

- 15：50 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長  
15：55 基調講演  
16：55 質疑応答・総合討論  
17：20 閉会

## 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

## 事業評価委員会実施要項(案)

## (趣旨)

平成24年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

## (主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

## (日時)

平成25年3月(3時間程度開催予定)

※各委員との日程調整後、正式に決定する。

## (場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ(松山市文京町3番)

## (参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

小田委員(山形大学), 各務委員(順天堂大学), 佐藤委員(愛媛大学),  
塩崎委員(高知大学), 夏目委員(名古屋大学)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

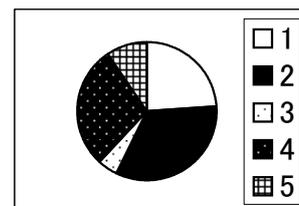
## (事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

## 第18回授業デザインワークショップ事後アンケート結果(回答者数:21名)

## 【設問1】ワークショップへの参加動機は何ですか

1. 新任研修に参加して興味をもったため	5	23.8%
2. 実施要項を見て内容に興味をもったため	7	33.3%
3. 所属部署からの依頼があったため	1	4.8%
4. 他部署の人と交流したいため	6	28.6%
5. その他	2	9.5%
合計	21	

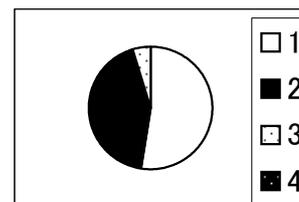


## 【設問2】設問1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・新任研修時に、教員は必ず参加することの依頼があったため。
- ・必修かと思っていました。
- ・①、③、④もあてはまります。ワークショップへの興味はかなりありましたが、大学から参加は義務ですと指示されなければ、2日かけて参加したか怪しいためです。
- ・以前より、シラバスの作り方や授業の進め方について専門的に学びたかった。

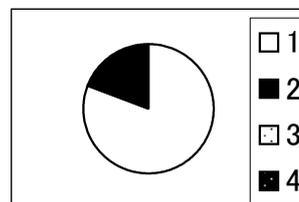
## 【設問3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	11	52.4%
2. どちらかといえばそうである	9	42.9%
3. どちらかといえばそうではない	1	4.8%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



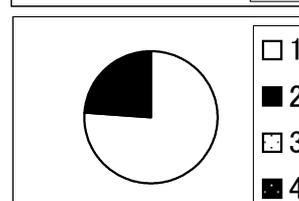
## 【設問4】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そうである	17	81.0%
2. どちらかといえばそうである	4	19.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



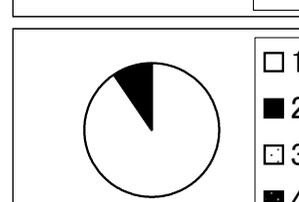
## 【設問5】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そうである	16	76.2%
2. どちらかといえばそうである	5	23.8%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	

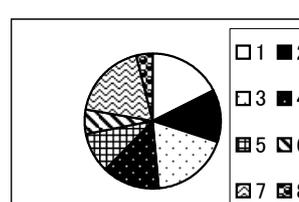


## 【設問6】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そうである	19	90.5%
2. どちらかといえばそうである	2	9.5%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	

【設問7】今回のワークショップで良かった点は以下のうちどれですか  
<複数選択可>

1. 学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	18	85.7%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	13	61.9%
3. 複数の授業方法について知ることができた	19	90.5%
4. 成績評価についての理解が深まった	14	66.7%
5. 自らの開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	10	47.6%
6. ワークショップの手法を知ることができた	6	28.6%
7. 他学部等の教員と知り合いになれた	19	90.5%
8. その他	4	19.0%
合計	103	

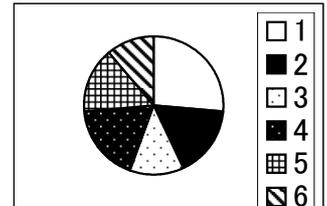


## 【設問8】設問7で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・他の先生の、模擬授業を拝見することができ、自分へフィードバックすべき点が多数気づかされ、かつ小林先生からの適切なアドバイスも大変参考になりました。
- ・「自らの開発した授業の～」が該当するのかもしれませんが、模擬授業の後に大竹先生や他の方からいただいたコメントが自分の授業改善にとっても役に立ちました。なかなかこんな機会はないので、授業コンサルティング? っていうものだなあと実感しました。また、他の方の話し方や授業の方法を見られたのもとても参考になりました。
- ・教育企画室のみなさんと知り合うことができ、授業デザインについての支援を受けやすくなった。
- ・自分の授業について模擬授業で批評していただき、自分では意識していなかった自分の癖とそれに対して学生がどう感じているかを認識することができた。

【設問9】 今回のワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか  
 <複数選択可>

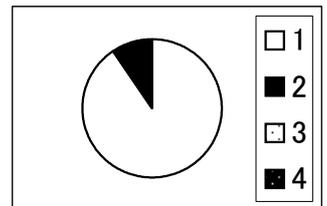
1. 適切な目的・目標設定ができるようになる	19	90.5%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる	12	57.1%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できる	9	42.9%
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	13	61.9%
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	11	52.4%
5. 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができる	8	38.1%
合計	72	



【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)  
 →別添資料参照

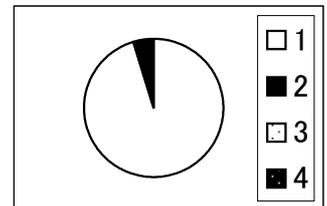
【設問11】 講師の言動は学習意欲を高めた

1. そうである	19	90.5%
2. どちらかといえばそうである	2	9.5%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



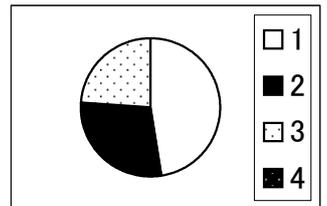
【設問12】 事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そうである	20	95.2%
2. どちらかといえばそうである	1	4.8%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



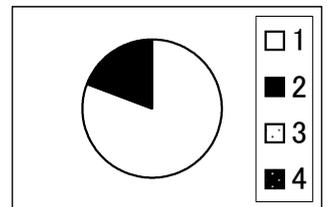
【設問13】 ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そうである	10	47.6%
2. どちらかといえばそうである	6	28.6%
3. どちらかといえばそうではない	5	23.8%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



【設問14】 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そうである	17	81.0%
2. どちらかといえばそうである	4	19.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



【設問15】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書きください  
 →別添資料参照

【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

回答

ワークショップで学んだ点は大別して2つ。第1に、到達目標の明確化の必要性。明確化することによって授業のスケジュールを立てることが格段に楽になった。その意味において明確化は第一義的には学生のためにおこなうわけだが、われわれ自身のためでもあるように思う。第2に、受講者の数に応じた授業デザインが重要だということ。恥ずかしながらこれまであまり考えてこなかった点であり、模擬授業の際にフロアからご指摘を受けて本当に勉強になった。また、教育の場で今後実践してみたい点としては、新しく学んだ技法、とくに簡略的な技法の活用を挙げたい。これまでも、グループディスカッションやブレインストーミング、あるいはKJ法といったものについては積極的に活用してきたつもりだが、グループを決める必要があったり場合によっては模造紙やポストイットが必要になるため、肝心のグループディスカッションに至るまでに時間を要するという欠点もあった。今回のワークショップで、ペアの活用や「yes/noうちわ」等、より気軽に用いることのできる技法があるということを知ることができた。これらは今後ぜひ活用させていただきたい。

今回のワークショップで、自己中心的な説明方法で行ってきたことが良くわかりました。授業を設計する際に、注意すべき点(シラバス、授業計画、授業方法、グループワークの設定方法等)を勉強させていただきました。現時点で、すべてを理解できておりませんが、グループワークやアイスブレイクなどをまずは、取り入れて共通教育科目の目的・目標の設定が想像以上に難しいことを知った。目的・目標が幹となる部分であり、そこさえ決まってしまうと15回の講義内容はほぼ自動的に(内容の工夫は別として)決める事ができると体感した。また、ミニ授業を通して、授業方法(例えばY/Nうちは、KJ法など)の有用性を体感することができた。数学では講義・演習形式以外の授業方法は難しいと言われており、実際私もそう思っているが、Y/Nカードなどは活用できるかと思う。その他の方法についても頂いた資料から吟味してみたい。

シラバスを作成する際に、「目的」と「達成目標」との違いがよくわかっていなかったのだが、ワークショップに参加してどのような違いがあり、どのように記述すればよいのか、よくわかった。そして、授業の目的と目標についてしっかりと考えることを通して、その授業で教えるべきことは何か明確になり、全体のスケジュールや構造が組み立てやすくなることが分かった。また、グループワークなどの学生が授業に積極的に参加する方法について学べたことは、今後の授業に活かせると思った。深い学び、浅い学びについて知ったことで、その授業をどのように位置づけていくのか、多様な学生の意欲やニーズにどのように対応した授業であるべきかなど、教育そのものについても深く考えさせられた。

〈ワークショップで学んだ点〉シラバスで目的、到達目標を明らかにすることの重要性を認識した。私がこれまでに作成したシラバスは、学生に不親切だったと痛感した。授業の目標や授業と通じて得られる能力が明記されていなければ、学生は授業を選択しようと思わないし、仮に選択してもミスマッチが起こる可能性が高くなる。まず、授業の意義、全体像を明らかにし、そのために各授業があるということ、わかりやすく紹介するように工夫しようと思う。大学や専門の異なる先生方と意見交換する機会を持てたことも大きかった。問題の捉え方やアプローチ方法も様々であり、バックグラウンドの異なる学生が集まる授業を担当する際に、今回の経験が生きると思う。また、他大学の様子や取り組みを知ることができた。〈教育実践の場でやってみたい点〉個別の授業だけでなく、コースの目的や到達目標をより明らかにし、学生が「愛媛大学で勉強する意味」を見失わないよう、モチベーションを高く保てるようにしたい。

①学んだ点 ・新しい手法(パワポを使った授業)に挑戦してみて、作るポイント、見せるときのポイントを知りました。 ・自分の教案作成のときは、基本的に自分一人のアイデアしかないのでワンパターンでした。でも、分野も担当科目も違う先生と話して、新しい授業方法を知ることができ、内容によって手法を選ぶことの重要性に気づきました。 ・慣れて書いていたシラバスですが、改めて書き方を学び直すことで、今の自分の振り返りにつながりました。 ・模擬授業を通して、自分の癖を指摘してもらえたこと、また良い点も見つけてもらったことで、小さな自信につながりました。②今後やってみたい点 ・パワポやレジメの手法を取り入れたい。 ・教員間で授業を見学し合うことの利点が大きかったので、できれば周囲にも勧めたい。

①わかりやすいシラバスの作り方:特に目的の書き方、到達目標の書き方、到達目標と対応させた成績評価、ルーブリック評価等②授業計画書の作り方、使い方③学生参加型のグループ作業等、様々な授業方法について、実践できるレベルまで、指導していただきました。また、ミニ授業発表会では、他の先生から役にたつ授業スキルを多く学ぶことができました。後期授業から、実践していきたいと考えています。

色々授業方法を勉強しましたシラバスの書き方を勉強しました 有益ですFrom other members, I learned how to prepare for the lessons and how to teach in class. It is important for me. IN future I would like to try to use the teaching methods taught here, such as KJ methods, and try my best to make the students have the deep and active study .

・本来は一人での作業であるシラバス作成をグループで議論でき、様々な視点や能力を結び合わせて作り上げることができたことが有意義であった。 ・模擬授業を通して、わかりやすく説明することや教材の有効な使い方、また講義の際の目配りや間の取り方も勉強になった。 ・アイスブレイキングとしてのクイズ形式の導入を導入してみたい。 ・毎回の授業計画書を作成し、スケジュール管理し構成のわかりやすい授業を心掛けた

①授業の目的と到達目標と評価とに関連性を持つこと、評価目的と評価基準を明示することも学生のやる気につながることに、目的にあわせて授業法を選択することなどを学ぶことができました。とくに、学生を主語にして考えることが、すべてに一番大切であると認識した次第です。②学んださまざまなしかけを使って、初めてでも学生同士が仲間になれるような雰囲気をつくってみたいです。あるいは連帯感をもてるような。また、私なりの動機づけの方法も意識して確立したいと思います。

今回のワークショップでは学生の興味や知的好奇心を喚起する方法を学んだ。特にクイズを導入したときには「解答は後ほど」とすることや授業の終わりに発展的内容に軽く触れて終わることはこれからの授業で活用していきたい。また、模擬授業で指摘されたように「淡々と話している」傾向があるので、声のトーンや話す早さに変化をつけることで、熱意だけではなく、授業内容が伝わる話し方を実践していきたいと思った。これまでの特別支援学校での指導経験から「指導と評価の一体化」を心がけてきたが、初等中等教育と同様に、高等教育においても目標を明確にし、評価規準を明確にするという視点が重要であることが確認できた。大学の授業でもこれまでの経験を活かしていくことができると思えるようになった。

①ミニッツ・ペーパーなどの効果的な使い方。GWでプライベートな問題について話す必要があるとき、事前指導を入れて心理的負担を低減すること。常に全体の流れを意識し、各回との関連付けを行うこと。ムードルの使い方。他の教員のレジュメの作り方(共同作業において)。②ミニッツ・ペーパーの使用。ムードルの使用。「刑法」という授業でもGWを用いてみたい。Yes・Noうちわ(赤青カード)を使ってみたい。

#### ① ワークショップで学んだ点

- ・ シラバスの作成法について、学生の立場に立って考える事が出来るようになった。
- ・ 特に最後に行った模擬授業が私にとって有益であった。具体的なアドバイス、例えば授業を行う上での「間」の取り方、授業で言った事柄で特に重要なものについては、「キーワード」として黒板に記載する事等、詳細に渡って色々指摘して下さい、自分一人では気づかない点が今回明らかになった。

#### ② 教育実践の場で今後やってみたい点

- ・ 黒板の授業だけではなく、今回教わった点を踏まえてパワーポイントを使った授業にもチャレンジしてゆきたい。
- ・ 今後、学生に対して授業の始めに「ice breaking」させることによって、より深く授業に集中出来る環境を作ってゆきたい。

回答(シラバス作成については勉強になった。特にシラバスに書いた授業目標を、評価可能なものとする書き方にする方法は今後役に立つと思う。他の様々な専門をお持ちの教員と知り合えて一緒に作業にできたことも、今後の教育・研究において役立つものと思われる。)

#### ①学んだ点

- ・ 様々な授業方法の呼称とその手法を知る機会を得、既に自ら体験、授業内で実践してきたことを専門用語を通して確認することが出来た。
- ・ シラバスの書き方
- ・ 毎回の授業において、流しがち、見落としがちな部分を模擬授業とそのフィードバックを通して気づくことが出来た。
- ・ 様々な分野、キャリアの教員同士が対等にいかに協調し合い、効率よく協同作業を行っていくか。
- ・ ワークショップの構成
- ・ Motivation Theories

#### ②教育実践の場で今後やってみたい点

- ・ ワークショップにて紹介があった様々な授業方法 (ex. 逆転授業、Clicker、Yes/Noうちわ、ワークショップで体験したような「楽しい」ice breaking、など)
- ・ 毎年恒例のシラバス作成の際に、ワークショップで学んだポイントを反映させて、書くこと。

授業の展開の方法(目標設定・授業の展開方法・シラバスの書き方等)を一連の流れとして学ぶことができた。また、様々な授業方法についての知識を得ることができた。ミニ授業では、他の先生方の授業を拝見し、授業の技法や話し方など学ぶことができた。今後授業で、学科や構成に応じたシラバスを作成し、また、引き込まれるような授業が展開できるよう様々な授業方法を試してみたい。特に現在は一方的な授業が主となっているので、学生参加型の授業方法を取り入れたい。

シラバスの書き方について講義を受けたことが過去にあったが、知識だけでは実践に移すまでには至らなかった。今回、模擬授業までの一連の流れを実際に行ってみたことで、自分の苦手な思考過程、作業の部分や授業の際の癖のようなものまでがわかってよかった。そのことが今回学んだ手法を取り入れることで改善できると感じられ自信につながった。

愛大に勤務でないため、今後のサポートがないことは残念であるが、今後も教師としての素養を養える研修があれば積極的に参加したいとおもう。

多くの有用な手法を学ぶことができたが、今後自分でよく整理する必要がある。整理した上で必要に応じてピックアップして活用していきたい。研修が終わった直後の現時点では全く処理しきれていないが、学生が参加しやすくなるような手法(Yes/No等)に関しては、早速取り入れていきたい。ミニ授業でほかの人の授業を聞いたことは大変良かった。特に、ゆっくり話しても聞く側は全くストレスを感じないということに気がつけたのは大きな収穫であった。

- ・ シラバスの記述項目の狙い、異議、必要性など学生の視点も交えて理解することができました。
- ・ 作業は増えるものの、授業計画書を作成することにより各界の時間配分やアクション、チェックポイント、シラバスとの整合性などを確認することができ授業改善に有効であると感じました。
- ・ 学生のやる気を出させるために、適当な動機づけモデルを選択し、それに基づく授業の展開を考えてみたいと思います
- ・ 担当する文系ゼミ活動においてThink,Pair &ShareやYes/Noカードなどを実践してみたいと思います。

さまざまな授業方法を知ることができた。特に学生を授業に巻き込み、参加させる方法については参考になった。一方、そのような授業方法は愛媛大学さんのようなレベルの大学の学生について有効な方法なのだろうか、という疑問も残っている。私の所属する大学での学生の動機づけや理解力を鑑みた時、授業方法以前の問題も出てくるような気がしている。とはいえ、それは単にこちらの言い逃れなのかもしれない、より良い方略を持てばしっかりと魅力を感じさせることもできるのかもしれないと、まだ逡巡している。もしも本学の学生も魅力を感じるのであれば、グループワーク、クリッカーの利用などを積極的に取り入れていきたい。

授業での到達目標と評価方法のリンクの仕方、それに基づいて授業全体を設計する、という手法について学んだ。また、グループワークを通じて、各回のレジユメの論理展開の重要性など班メンバーより指摘され参考になった。それとは別に、Yes, No うちわなど、クリッカーなど、学生の反応を即時に捉える手段が豊富にあることは勉強になった。また活用していきたいと思う

【設問15】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

回答
<p>ワークショップ会場の環境について補足させてください。静かだし、いい意味でケータイの電波が通じないし、良好な環境の下、ワークショップを受けさせていただきました。が、トイレだけはあまり快適でなかったように思います。</p>
<p>申し込み時点では、赴任直後のため内容についてあまり理解せずに申し込みました。実際参加しまして、授業を行う際の、勉強すべき事項を盛りだくさん勉強することができ大変良かったです。すべての内容を理解することはできませんでしたが、これからの授業(や対外的な講演)を行う際に配慮して実施するよう努力して参りたいと思います。私にとっては、様々な大学の他分野の先生方と交流する機会とその先生の模擬講義の聴講(解説評価付)が、今回のワークショップでの一番の成果と考えております。</p>
<p>事務局の皆様お疲れさまでした。とても手際良く運営されており感銘を受けました。講義を受けた感想人の意見を拾いながらも最終的には予定通りのオチまで持つて行く技術等は凄いなと思いました。まねしたいです。グループワークの感想目的・目標の設定で最初は議論が割れましたが、結局は論理的にまとまりました。最後の握手はどこかで使わせていただきます。ミニ授業の感想予期していたコメント、予期しなかったコメントの両方を多数いただくことができました。今後の課題としたいです。一点だけ気になったのですが、もっと厳しくても良かったかもしれません。お互い大人なので相当に言葉を選んで発言していただいていたようですが、もっとストレートでも良かったと思います。改善点の指摘の際に、発表者の意図を汲んで認めつつも、改善点があることを提示する、というやり方で意見を述べられていたと思うのですが、それはそういう技法(例えば一旦認められると人は他人の意見を聞きやすくなる)があるのでしょうか。そうだとすると、私はその技法は多用すべきではなく、どこかでストレートに言わなければ確信が伝わらないこともあると思います。今回の用に初対面だと難しいですが、ミニ授業の最初に厳しい事を言いますと前振りしておけば不可能でもなかったかと思えます。</p>
<p>今回のワークショップは学部学生を対象とした講義を基本として想定していたが、演習の運営やフィールドワークの指導、大学院生への授業など、大学教員が担当する授業は対象も内容も多彩であるため、今回は対象としなかった授業デザインについても聞きたかった。また、新任教員とはいえ、大学での教育歴が長い参加者も多いはずであるため、講師からの講義を受けるだけでなく、実際に大学教育現場で教えている各自の経験に基づいた、他の参加者が行っている授業での工夫や技法について提示し、話し合う場がほしかった。今回のワークショップは、いわば「料理教室」のようなものであり、上手な料理を作るための技術を教わった参加者が、教わったことを活かして各自の家庭でどのような料理を作るかは、それぞれの才覚にかかっていると思う。そして、家庭料理とは、手に入れられる食材、調理に費やせる時間、食費にかけられる費用、食べさせる家族の好みや健康など、様々な制約条件がある中で、毎日一定の質の料理を提供しなければならないため、料理教室で教わった通りには作れないものである。それと同様に、週に4,5コマの授業を担当し、その他に会議や大学内での事務、自らの研究もしなければならない大学教員が、すべての担当授業でワークショップで教わったことを活かせるとは必ずしもいえない。制約条件として、3,4人の複数の教員が1コマの授業を入れ替わりで担当するために個別の教員の裁量で15回の授業の内容を組み立てられない授業の存在や、机と椅子が固定されていてグループワークに適さない教室、100人を超える受講者の多い授業などである。授業への学生の積極的参加を促すことで学ぶ意欲を喚起させるために、教員が授業を工夫する技法を習得することを目的としてワークショップは行われたのだろうが、では、教員が工夫した授業をする環境を大学側がどこまで提供できているのか、授業の内容を決定する裁量が各教員にどこまであるのかについて考えるべきではないかと思う。教員が授業を工夫するために様々な技法を学び、実際の教育現場で活かそうという熱意があったとしても、それを為し得ない環境が制約条件となっているのであれば、教育機関として大学側が改善すべき点も検証する必要がある。</p>
<p>松山市内で実施すると、夜に帰宅される先生がいらっしゃるため、敢えて離れた環境で実施するという意図は理解しました。心配な点として、山地での開催だったため、研修所や宿舎でムカデを何度も発見し、場合によっては刺されていた可能性があったことが挙げられます。また、虫が苦手な先生だと、研修に集中できないのではないのでしょうか?このようなことを言い出すと、ゴキブリも出ない環境を用意しないとイケませんし、それは不可能ですので、難しい点だとは重々承知しておりますが…。</p>
<p>設問13については、教室の広さは受講者の数に対してちょうど良かったと思います。みなさんの顔までよく見えましたから。冷房が故障しているということでちょっと暑かったのですが、それだけです。運営側がいろんな仕掛けを周到に(!)用意していて、面白くて、学生気分に戻って楽しみました。思っていた以上に同じ班の人や模擬授業のときに同じ部屋になった人と打ち解けて、率直に話せたことがとても良かったです。この人たちが同僚だったらいいなあと感じました。たぶんそれぞれの職場へ帰っても、こんなコミュニケーションをしていけたらと感じた人も多かったのではないのでしょうか。お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>ワークショップの準備段階から最後まで、きめ細かいお世話と指導をしていただき、ありがとうございました。ご指導いただいたことを活かして、学習意欲の高まる授業を実践していきたいと考えています。これからも、ご指導よろしくお願いします。</p>
<p>よく練られた内容と進め方で、運営方法そのものも大変勉強になりました。深夜までそして早朝から、大変お世話になりました。</p>

このたびは、ワークショップ開催をいただき、ありがとうございました。みなさんの明確に企図された講義と丁寧な説明のおかげで、私自身のなかで試行錯誤していたことの多くが分かりやすかつ体系的に理解できるものとなりましたし、同時に多くの授業法や理論などを新しく学びました。また、ワークグループ形式・ワークショップ形式で、他者と学ぶ過程を共有できたことも何よりでした。ワークショップのプログラムそれ自体や適度にちりばめられたしかけも、自分自身が学生の立場になってその効果を知ることができました。すべて、今後に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

黄色いテキストブックを持参したのですが、配布されていました。新任研修でもらっていたので、持参するように指示し、持っていない人にだけ配布し、忘れた人には貸し出していただくのでも良いように思います。全く個人的なことですが、喘息とアレルギーがあるので、研修室のタバコの臭い(カーテンに染みついている?)や食堂の匂いが気になりました。

ゼミで、ペア&シェアを試してみたところ、もともと一人で発言することを嫌がらない学生たちでしたが、より活発に意見を言うようになり、しかも、より密度の高い議論ができるようになりました。ワークショップでお世話になりました先生方に、御礼申し上げます。ありがとうございました。なお、環境面ですが、今年は雨の影響もあって、暑くてつらいということはなかったのですが、冷房はあった方が良かったかと思いました。また、トイレは、人によると思うのですが、和式は苦手な人もいるかもしれません。

ワークショップの開催、本当にお疲れ様でした。私にとって非常に有益な二日間となりました。ただ一点、次の開催についてお願いしたい事としては、可能であれば松山市内で行って合宿形式で宿泊するか、一人で宿に泊まるかの選択肢を与えても良いのでは、とも思いました。合宿も交流が深まりとても良いと思います。他人に知られたくない等の諸事情でどうしても一人で宿泊したいという方もおられるのでは、と思います。個人的には、他の方のイビキであまり眠れなかったし(決してその方が悪いわけではありません)、他の方の睡眠を邪魔してはいけないとの遠慮でシャワーも控えておりました。しかし、全体を通してみると、本当に有意義な2日間であり、今回のワークショップでの学びを踏まえて、私が行う授業にプラスとなるようこれから授業計画を改良しようとしている所であります。本当にありがとうございました。今後とも、どうか宜しくお願い致します。

教育法、教授法といったものは、教員の専門領域によって異なる部分が大いと思う。その中で共通基盤となる教育法、教授法を学ぶという意味では役立つものだったと思うが、今後は応用編として専門領域ごとの教育法・教授法の講座を開設して頂ければ是非とも参加したい。例えば、哲学や思想、法律・制度といった授業のような、学生に難しい知識や思考が要求される授業で使える教育法・教授法を教えて頂けると有難い。

参加前までは、ハードスケジュールをこなせるか、一般的に女性教員が少ない「大学」という環境のなかで、女性の参加者はいるのか、など不安な気持ちがよぎったこともありましたが、絶妙なアイスブレイキングのお陰でそのような不安は一気に吹っ飛び、無理なく心地よいペースで一日半のワークショップに参加でき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、様々な大学の、多様な分野の教員と懇談する機会に恵まれ、とても楽しかったです。

これは一重に、愛大教育企画室の方々の細やかなサポートのお陰であり、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

ワークショップ参加の対象者について、教歴年数が一つの目安になっていましたが、少し気になったことがありました。参加者個人としては、関心があって参加させていただいたので、5年以上でも受け入れていただき、感謝しております。他方、グループワーク作業時に、経験年数が(無論個々の性格も)反映されてか、控えていてもつい仕切ってしまった感があり、他のメンバーには申し訳ないことでした。

今回ワークショップに参加して、これほど楽しく充実した研修になるとは良い意味での「想定外」であり、非常に満足しております。最後に頂いた「修了証書」も、形として残り、嬉しいです。

企画室の先生方、スタッフの方々、本当にお世話になり、ありがとうございました。

研修施設では、施設が今回の研修のみの使用であったので、研修に集中しやすい環境であったと思う。また、周囲の環境も静かでよかった。

初めてこのようなワークショップに参加させていただいたのですが、内容、進行、周囲の環境、スタッフの方々など本当に素晴らしく、得難い経験をさせていただくことができました。ありがとうございました。

短時間で非常に多くの手法が出てくるので、主要な手法の体系が分かるような簡単なまとめのプリントがあるとありがたいです。出版されている本がそれにあたるのかもしれませんが

エアコン故障のため湿度が高かった。事前に入念に準備いただいていたのおかげで充実した時間を過ごさせていただきました。スタッフのみなさんのご尽力に感謝します。

以前から自分の自己流の授業の進め方に不安があり参照できるモデル授業に関心を持っていたことから、今回参加させていただきました。

事前に黄色いテキストをいただきざっと目を通して参加しました。実際のプログラムでは講義とグループワークが綿密に準備されとおり、読み返す時間はありませんでした。事前に予習すべき課題などを設定していれば当日のスケジュールが少しは楽になるかとも思いましたが、参加者の準備度合いにばらつきが出ることも考えられますね。)

俳句披露、尺八ファンファーレ、七夕の星座解説など懇親会も趣向が凝らされとても楽しく、みなさんと打ち解けることができました。ありがとうございました。

集合写真、俳句写真、ミニ授業のフィードバック、ビデオなど今後の振り返りに利用させていただきたく、お手

難しいと思うのですが、宿泊施設やワークショップ会場についてはもう少し清潔なところが望ましいと思うのです。トイレに行くのが苦痛でした。それと、蚊取り線香も仕方ないと思うのですが、アレルギーを持つものとしてはつらかったです。

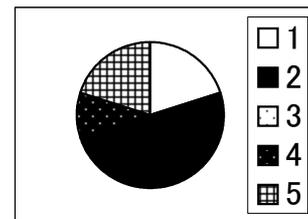
グループワークの題材のテキスト選択について。あえて専門から外したとのことだが、逆に共通する専門分野の基礎科目を選ぶ方が良いのではないか(例:経済学者に他学部1回生でもわかる共通教育の日本経済入門をさせる、など)。全く違い専門の人と同じ班となり、話ができしたのは非常に有益ではあったが、専門分野外では、15回のシラバスを責任をもって真面目に考えられるほど、どうしても内容についての知識のないことがもどかしく感じた。知識がない結果、学外講師に丸投げする、などのやや投げやりな講義計画が多くでいたように思う

今回の研修は、かなり多忙な中での強制参加でしたので、正直なところ、あまり乗り気ではなかったのですが、終わってみれば、なかなか楽しく、参考になる点も多い有意義な研修だったと思っております。スタッフの皆様のご尽力とスムーズな運営に改めて御礼を申し上げます。

## 第19回授業デザインワークショップ事後アンケート結果(回答者数:10名)

【設問1】ワークショップへの参加動機は何ですか

1. 新任研修に参加して興味をもったため	2	20.0%
2. 実施要項を見て内容に興味をもったため	5	50.0%
3. 所属部署からの依頼があったため	0	0.0%
4. 他部署の人と交流したいため	1	10.0%
5. その他	2	20.0%
合計	10	

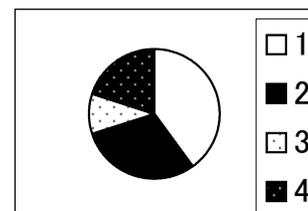


【設問2】設問1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・新人はでないといけないものだと思っていたから。
- ・昨年、参加した方から誘いがあったため

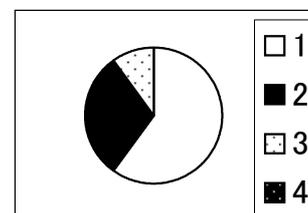
【設問3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	4	40.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	2	20.0%
合計	10	



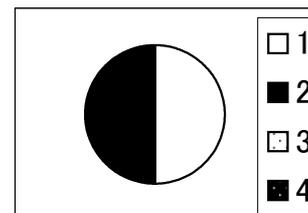
【設問4】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そうである	6	60.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



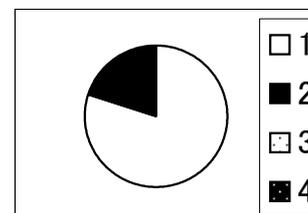
【設問5】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そうである	5	50.0%
2. どちらかといえばそうである	5	50.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問6】ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

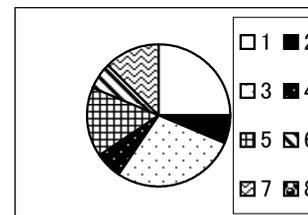
1. そうである	8	80.0%
2. どちらかといえばそうである	2	20.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問7】今回のワークショップで良かった点は以下のうちどれですか

<複数選択可>

1. 学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	8	80.0%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	2	20.0%
3. 複数の授業方法について知ることができた	9	90.0%
4. 成績評価についての理解が深まった	2	20.0%
5. 自らの開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	50.0%
6. ワークショップの手法を知ることができた	2	20.0%
7. 他学部等の教員と知り合いになれた	4	40.0%
8. その他	0	0.0%
合計	32	

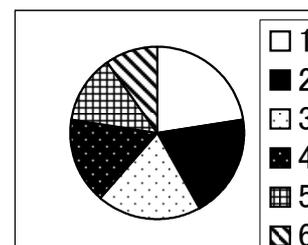


【設問8】設問7で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問9】今回のワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか

<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる	7	70.0%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる	6	60.0%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できる	6	60.0%
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	5	50.0%
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	4	40.0%
5. 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができる	3	30.0%
合計	31	

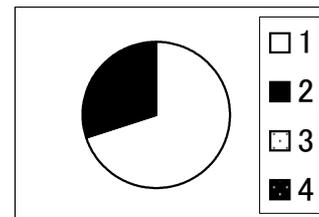


【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

→別添資料参照

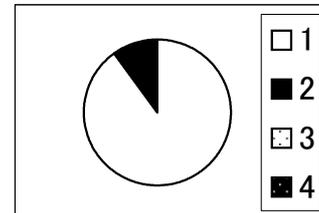
【設問11】 講師の言動は学習意欲を高めた

1. そうである	7	70.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



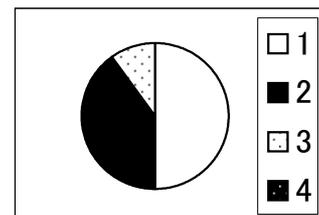
【設問12】 事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そうである	9	90.0%
2. どちらかといえばそうである	1	10.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



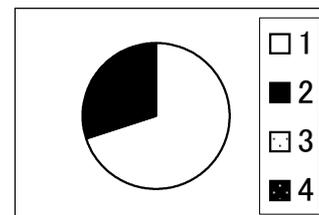
【設問13】 ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そうである	5	50.0%
2. どちらかといえばそうである	4	40.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問14】 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そうである	7	70.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問15】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書きください

→別添資料参照

【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

回答
<p>・自分の専門以外の科目を担当する際の苦勞を知った。・他人の授業からたくさんのことを学べた。・話し方(テンポ)など、普段気にしていなかったことも授業では重要であることを知った。</p>
<p>授業における発問の仕方にもいくつか種類があって、状況に応じた使い分けが有効であることを学びました。例えば、まずは誰しもが答えられるやさしい質問を投げかけ、教室で積極的に手を挙げてもらえる雰囲気づくりをおこなった後、段階をおって難易度を上げていく手法があるということを知りました。また、質問の投げかけに対して帰ってきた答えにきちんとレスポンスすることが重要であることを学びました。</p>
<p>シラバスを作成する際に教員の立場ではなく学生の観点で書くべきであること、効果的な授業のための様々な方法論を学んだことは今後ぜひ実践・参考にしていきたいと思う。</p>
<p>シラバスの作り方から授業方法の選択まで流れに沿って学ぶことができた。新任であるため来年度からシラバスの作成を一人で行うことはないと思われるが、今後の授業を実施するにあたって、その授業の狙いをわかり授業することの大切さを理解できた。</p>
<p>他の人への指摘であったが)、エーなどという間合いの声は、雑音でしかないという指摘はそのとおりで、気を付けなければならないと思い知らされた。語るときに学生との距離や、間合いの取り方が重要であることは、わかっているけど、なかなかできないことを、再度、気づかされた。講義では難しいが、学生に考えさせるような雰囲気や時間の作り方を工夫しなければいけないと思った。</p>
<p>研修目的で先生方の思いは十分に伝わった。各論でさまざまな手法を教えていただいたが、もう少し内容を具体的に聞きたかった。このような場面で対象人数には適・不適などがわかればさらに具体性があったような気がした。実際のミニ授業では講義内容を意識しながら行ったが、そのどれが良かったではなく全体の意識が高まった。また今後実践の場で必要な課題としてパワーポイント資料の必要性を考えていきたい。学生自身には自分の未知の力で学問を開拓するためには、多くの資料よりは考える力が最も大事ではないかと思った。</p>
<p>今回の研修で、シラバスの書き方について理解、何が学生の学びを促進するのか、複数の授業方法について知ることにについてはすごく勉強になりました。私の次の課題は知識としてある程度吸収できたこれらのことを、次学期からの授業でどう実践していくかだと思います。授業は様々な方法があることを知りましたが、対象とする学生層を認識した上で目的と手段が明確になっていることが大切だと思いました。</p>
<p>ワークショップで学んだ点 シラバスを作製する上で、その効率的作業手順について学ぶことができた。また、良いシラバス、つまり学生が期待しているものをそこからつかみ取れるシラバス、とは何なのかを知ることができ、その為にどのようなことに注意が必要かを知ることができた。また、シラバスとは授業ルールや評価方法についても記載されているものであると知り、隙のないシラバスとは何なのかを知ることができた。アイスブレイクという技術が存在すること、また自身で体験することでその効果について知ることができた。実践教育の場で今後やってみたい点 ここで学んだシラバス作製、学生と教員双方向で議論する形の授業</p>
<p>幅広い知識を持った教員の実際の授業に参加できたことが一番の学びであった。また、自分の専門外の分野をいかに教えていくか、その目的や目標ポイントを絞って授業を進めることを短時間で行ったことが自分の自信につながったと思う。それとともに、私自身はいつも授業案を作成して授業に臨んでいるが、授業案の大切さを再認識して、毎回丁寧に授業を展開することの大切さを再認識した。</p>
<p>シラバスの書き方を学生目線で改め、抽象的で理解が難しい用語をより具体的でわかりやすい内容に置き換えるようにする。授業の評価は、事前に細かい情報を学生に提供し、その情報に沿って授業運営を円滑に行うようにしたい。授業は、学生が積極参加できるように学生に意見を出させて収束させる方法をいくつか試したい。なかなか授業の難易度から見てKJ法のようなやり方を毎回試すことは難しいと思うが、グループを作って意見を出させる回を絞り、適用を考えている。</p>

【設問15】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

回答
<p>よく運営されていたと思います。今回は参加人数が少なかったのが模擬授業が少人数体制になってしまい、大勢の学生を相手にしている雰囲気ではできなかったのは残念に思いますが、今は授業をもっていないので、授業の実施方法など考えることがありませんでしたが、今回のワークショップは教育について考える良い機会を与えてくれたと思います。いろいろな先生方とお話しもでき、参加して良かったと感じています。</p>
<p>今回のワークショップではたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。正直申し上げますと、初めは参加に乗り気ではなかったですが、研修を終えた今、参加して本当によかったと感謝しています。研修を通して授業に関するテクニックを学ぶことができたのはもちろんのこと、普段会うことのできない方々と知り合う機会になったことが大きな収穫でした。そしてなにより個人的には、授業初体験の私に対し、最後の模擬授業の際に、同じグループの先生や参加メンバーの方々がかけてくださった温かいお言葉が非常にうれしく、今後の教員生活の最高の励みになりました。ワークショップの運営に携わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。</p>
<p>御存知の通り、各学科・専攻ごとに最適な授業・評価の方法は大きな差があります。その中で共通教育科目を選択し、それを中心にこのワークショップを行ったことは十分理解できます。しかし、このワークショップの主な対象は新任教員であり、その中でも授業の経験が非常に短いあるいは全然ない教員がほとんどです。その教員が実際に共通教育科目を担当するあるいはかかわることはおそらく数年或いは十数年後の話であり、新任教員として、特に工学系の教員が感じる不安や問題意識とはかなり遠い世界の話になってしまいます。もちろん共通になる様々なことがあるためワークショップに参加すること自体は有益になりますが、その有益が、赴任して間もなくの時点で、ほぼ2つ日間ほかの仕事を犠牲にまでしても得るべきことなのか考えてみると、そうとは思えないのが事実です。むしろ、同じ専攻のベテランの先生たちから1-2時間程度経験とかを話してもらった方がもっと大きな効果をもたらすのではないかと思います。単純な考えですが、今回のような共通教育科目を中心としたワークショップは、次の年から共通教育科目を新しく担当することになる教員に向けて行った方がいろんな面で効率・効果的であって、新任教員にはあまり向いてないと思います。新任教員向けのワークショップであれば、特に理工学系の教員の立場で考えますと、なるべく同じ専攻(文系、理系ぐらいでも)の先生たちをグループにして、そのグループに当てはまるプログラムを別に設けたほうが良いと思います。たとえば、理工学系であれば、授業や評価の方法には大した差がないので、むしろ同じ理工学系のベテランの先生に経験を話してもらったり学生指導における様々な問題に対する注意点などを教えてもらうのがより効果的ではないかと思われる。二日間もかけて、本学だけでは四国の大学を対象とする、大事なワークショップであれば、より効果的な方法を議論しつつ改善して行けたらと思います。</p>
<p>他の分野との交流は大変面白く、今回の授業での訴えたいこと等に違いがあることを感じたように思います。しかし、学生に教えるという一つの方向を目指している仲間同士での研修にはかなり意味があったようにおもいます。</p>
<p>宿泊施設研修なので、演習時間が長い時など、特に夏はいつでもシャワーだけでも使用できればいいなと思った。</p>
<p>上記2-4について、この研修の目的が知識の吸収とまずはアウトプットを見よう見まねでやってみることであればすごく有意義な研修でした。質問事項に「実践ができた」とありますが、今回の研修を通じて授業で実践ができるようになることが目標に設定されているのであれば、個人的には1泊2日の研修では難しいと思いました(もちろん個人差があると思いますが)</p>
<p>ワークショップのテーマとして大きく2つ、シラバス作りと模擬授業がありました。時間が少ないのに2つというのは、どちらのテーマに対しても100%の習得を難しくしているように思えました。力の入れていただいたところは良いのですが、例えばシラバスではそれ以外にも欄がありましたし、模擬授業でもスキル面で説明すべきことは多かったように思えます。また、模擬授業に関して言えば、フィードバックを頂いた後にチームにそれを持ち帰りより良いものにしたものがどのように違うかも見てみたかったです。つまり、年2回に分けてやってくれたらと思いました。もちろん時間のない方が多いので、それを考慮に入れての構成だったとは思いますが。</p>
<p>事務局のみなさま、お世話になりました。</p>
<p>スタッフの皆様にお世話になり、感謝しております。</p>

## 平成24年度「教育力開発基礎プログラム」アンケート(回答数: 11名) 8月31日～9月1日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	8	0	3	0	0	11

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	10	0	0	1	0	11

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.研修参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	5	5	1	0	0	11
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	2	3	4	1	1	11
2-3	研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	2	1	4	3	1	11

3.研修プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	研修の目的は明確に設定されていた	8	3	0	0	0	11
3-2	研修は自分の業務に生かせる内容だった	7	4	0	0	0	11
3-3	研修はわかりやすい順序ですすめられた	7	4	0	0	0	11
3-4	研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	6	5	0	0	0	11
3-5	研修の実施時期は適当だった	6	2	2	1	0	11
3-6	参加者の人数は適当だった	3	6	1	1	0	11

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	7	4	0	0	0	11
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	8	3	0	0	0	11
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	6	5	0	0	0	11

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
5-1	研修会場は快適な環境だった	9	2	0	0	0	11
5-2	研修会場には十分な設備が整っていた	10	0	1	0	0	11
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	10	1	0	0	0	11

6.研修成果について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につける ことができた	5	6	0	0	0	11
6-2	受講したことによって教育への取り組み方 が改善されると思う	7	4	0	0	0	11
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	3	8	0	0	0	11

7.研修全体について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
7-1	研修は全体的に満足できるものだった	6	5	0	0	0	11
7-2	研修は期待を上回る内容だった	6	3	2	0	0	11
7-3	今後も、この研修を継続していくべきだと思 う	4	7	0	0	0	11
自由記述	教育力開発基礎プログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。	※下記に記述					
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	※下記に記述					

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
2	授業計画、資料作成、学生との交流の仕方
3	学生とのコミュニケーションを大切にしながら授業を行う事
4	話術、授業中でのコミュニケーション法
5	・学生とのコミュニケーションの中で授業を展開する技術 ・学生が”学生”となるよう(学ぶ意欲を持つよう)触発すること
6	・説明のメリハリ ・内容の調整 ・時間の配分
7	学生との接し方・距離感、メリハリのつけ方
9	わかりやすい授業
10	授業中の学生のコントロール方法(集中させたいとき、リラックスさせたいときなど)
11	英語教育に関する知識

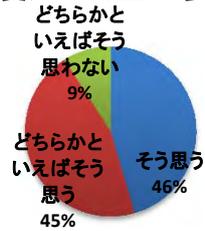
自由記述	「教育力開発基礎プログラム」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス作成から授業計画の立て方まで細かくまとめられていた冊子は良かった。今まで自己流でやっていた所の改善点が浮きぼりになった。</li> <li>・自分の授業を他の先生方に見て頂き、コメントをもらえたところは良かった。</li> <li>・他人の授業を見て、自分の授業にとり入れられる所など、学ぶべき所が多かった。</li> </ul>
2	同じ大学の教員でも領域がちがうと交流がないので、色々な科目、色々な先生がおられることがわかり、視野が広がったと思います。自分の領域を知ってもらうよい機会にもなりました。
3	FDの意義、目的を知れてよかった。
4	授業する自分を客観的に見る機会ができ、建設的な意見をもらう事ができた。
5	他の先生方の授業を見ることができた。
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の不足を知ることができたこと。</li> <li>・他人の講義に触れることができたこと。</li> <li>・アドバイスをいただいたこと。</li> </ul>
7	改めて自分の授業を見直すいいきっかけになった。 自分に足りない部分を確認できた。
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも教育の重要性について認識できた。</li> <li>・教育内容の質的向上を促す要因をより実践的なレベルで指導して頂けたのが良かった。</li> </ul>
9	自身の授業をふりかえり、良い授業は参考にすることが出来た。
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の先生の授業のやり方が大変参考になった</li> <li>・学生の立場でも模擬授業に参加したことで、つまづいたり、困ったりするポイントが分かったような気がした</li> </ul>
11	シラバスの作り方など、これまであまり教わる機会のなかったことを、事前準備の段階で詳しい資料によって学ぶことができてよかった。他の参加者の模擬授業も参考になった。

7自由記述	教育力開発基礎プログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	・模擬授業では、実際の授業にできるだけ近い設備を用意した方が良いと思う。黒板と小さいホワイトボード、教卓の有無など、授業の進行に大きく影響すると思う。
2	他のグループの方との交流ができなかったのも、アイスブレイクは全体でやってもよかったのかもしれませんが、授業コメントシートは記名式の方がよいと思います。
3	個人的には、浅く広くにした方がよいと思う。参加した人に次のステップ(例えばコンサルテーション)で要求するよりは幅広い人に来てもらった方がよい。
5	授業内容を、自分が最も工夫していると思う点の報告にすると、見ている方(参加者)がより学べると思う
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人教員間の交流時間をもうけてほしい。</li> <li>・新人教員の悩みを聞いてほしい。</li> <li>・模擬講義を見させてほしい。</li> </ul>
7	今回くらい的人数が丁度いいのではないのでしょうか。特に、模擬授業のことを考えると、これより増えると、効果が薄まるように思います。
9	全員強制参加を徹底する。
10	講義より模擬授業の時間を多くとる(多くの参加者に模擬授業をやらせよう)方がよい(そういう機会はめったにない)

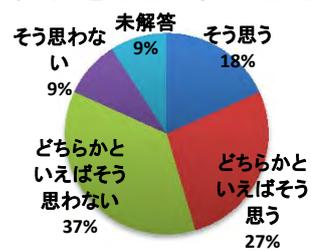
7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
2	湯茶等ご準備いただき、ありがたく思いました。 お世話になりました。
3	上記に関連するが、FDに無関心どころか、「参加するのか」と思われがちのところもあります。正直、半ば強制のように感じられたわりには、うまくのがれた方もいらっしゃるようです。私は参加してよかったですが、私はこの位にさせていただいて、底上げをはかった方がよいと思います。
8	pptで講義を行う人向けに、スライドの作成に関する指導も(少しだけでも)あると良いと思う。
9	授業期間中の方が良かった。 (夏は長期出張や研究に没頭できる貴重な時期のため) 参加者が少ない。
10	特にありません
11	スタッフの方がとても丁寧に対応していただき、前向きな気持ちで研修に臨むことができました。

※自由記述の番号は回答者が連動しています。

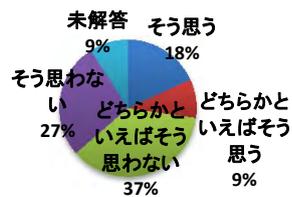
2-1 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した



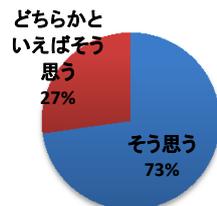
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



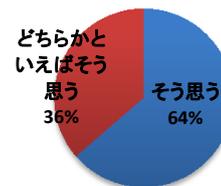
2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した



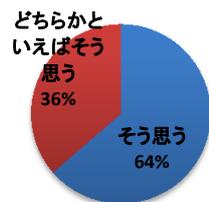
3-1 研修の目的は明確に設定されていた



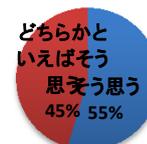
3-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった



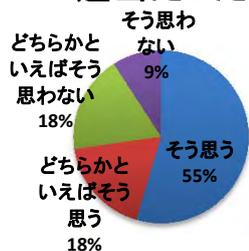
3-3 研修はわかりやすい順序ですすすめられた



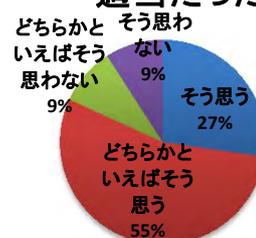
3-4 研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった



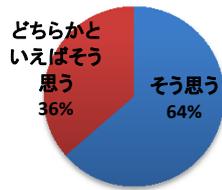
3-5 研修の実施時期は適当だった



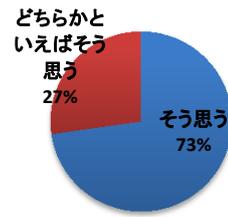
3-6 参加者の人数は適当だった



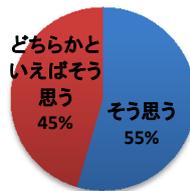
4-1 講師の言動は学習意欲を  
高めた



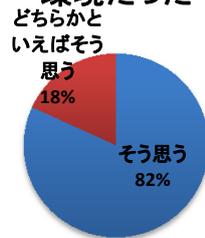
4-2 講師は研修に必要な知識  
を十分に持っていた



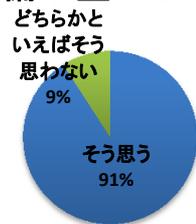
4-3 講師の用意した教材は  
わかりやすかった



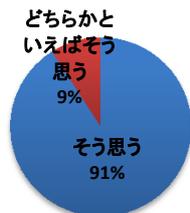
5-1 研修会場は快適な  
環境だった



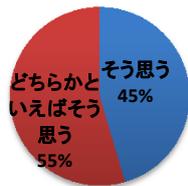
5-2 研修会場には十分な  
設備が整っていた



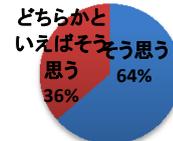
5-3 スタッフは手際よく研修を  
運営していた



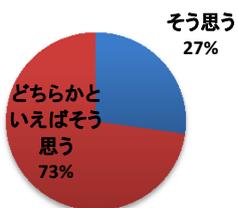
6-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



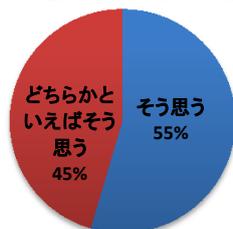
6-2 受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う



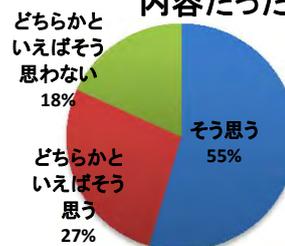
6-3 新たに人的なつながりをつくることができた



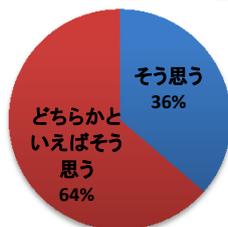
7-1 研修は全体的に満足できるものだった



7-2 研修は期待を上回る内容だった



7-3 今後も、この研修を継続していきべきだと思う



## SPOD研修アンケート集計結果

研修名：第3回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日：平成24年9月20日（木）～21日（金）

実施会場：四国電力株式会社総合研修所

参加者数：12名

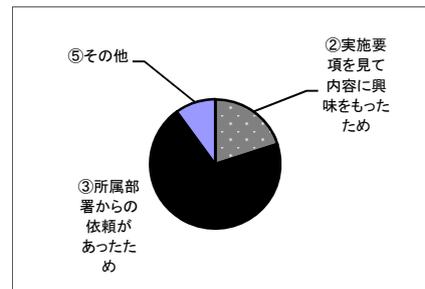
アンケート回答者数：10名

## 1. 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

## 1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか

※複数選択可

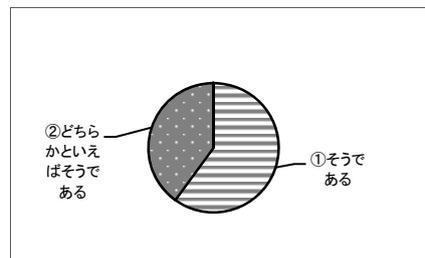
	度数	割合
①新任研修に参加して興味をもったため	0	0.0
②実施要項を見て内容に興味をもったため	2	20.0
③所属部署からの依頼があったため	7	70.0
④他部署の人と交流したいため	0	0.0
⑤その他	1	10.0
計	10	



## 1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

## 1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した。

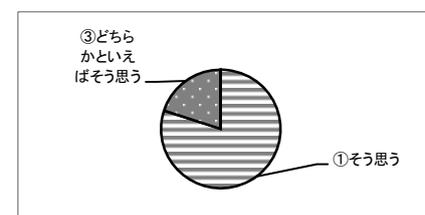
	度数	割合
①そうである	6	60.0
②どちらかといえばそうである	4	40.0
③どちらかといえばそうではない	0	0.0
④そうではない	0	0.0
計	10	100.0



## 2. 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

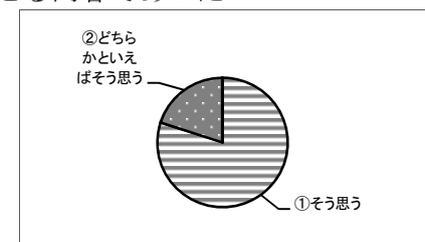
## 2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

	度数	割合
①そう思う	8	80.0
②どちらかといえばそう思う	2	20.0
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



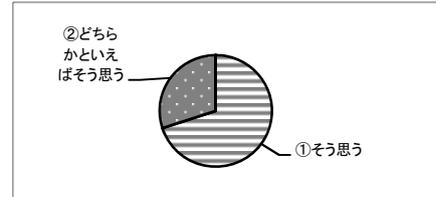
## 2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

	度数	割合
①そう思う	8	80.0
②どちらかといえばそう思う	2	20.0
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

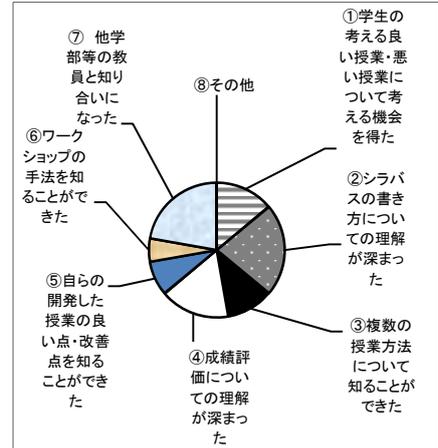
	度数	割合
① そう思う	7	70.0
② どちらかといえばそう思う	3	30.0
③ どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④ そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか

※複数選択可

	度数	割合
① 学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	5	13.9
② シラバスの書き方について理解が深まった	8	22.2
③ 複数の授業方法について知ることができた	4	11.1
④ 成績評価について理解が深まった	6	16.7
⑤ 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	3	8.3
⑥ ワークショップの手法を知ることができた	2	5.6
⑦ 他学部等の教員と知り合いになれた	8	22.2
⑧ その他	0	0.0
計	36	



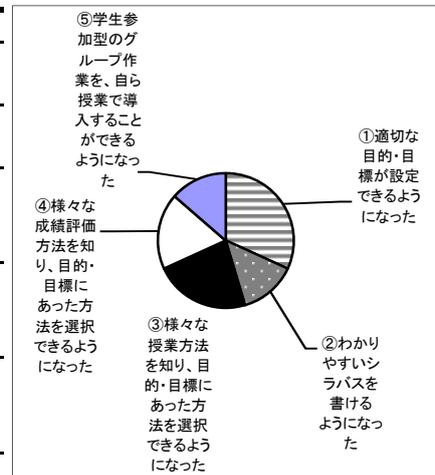
2-5 2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

3. 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか

※複数選択可

	度数	割合
① 適切な目的・目標が設定できるようになった	7	31.8
② わかりやすいシラバスを書けるようになった	3	13.6
③ 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5	22.7
④ 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4	18.2
⑤ 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	3	13.6
計	22	

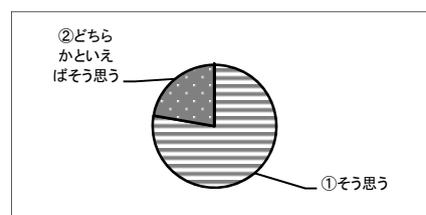


3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。(別紙記載)

4. 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

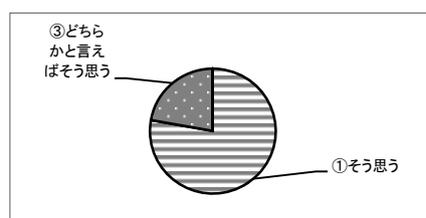
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
①そう思う	7	77.8
②どちらかといえばそう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



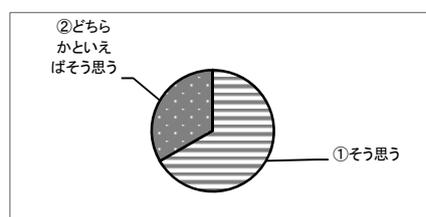
4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

	度数	割合
①そう思う	7	77.8
②どちらかといえばそう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



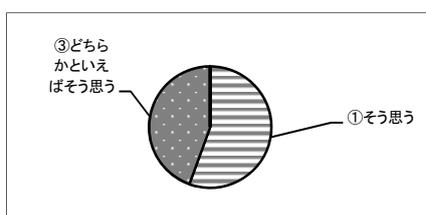
4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

	度数	割合
①そう思う	6	66.7
②どちらかといえばそう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



5. ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	度数	割合
①そう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



6. 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。  
(別紙記載)

## 【自由記述欄】

### 3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

・もっとも学んだことは、学生のために、学生が理解できるようなシラバスを作ることが大切である、という点である。シラバスが、学生に説明を行うためのものであるという認識がなかったわけではないが、自分の考えていることをどのように表現するかに力点が置かれ、この授業を受講することによって学生がどのような力を身に付けることができるのか、どのような学習を行うのか、どのような課題があるのかなど、きめ細かく説明することの大切さを学びました。シラバスは、教師の学生に対する約束事であるということだけにとどまらず、学生が学びの指針となるものでなければならない。十分に検討を加え、学生にとって良いシラバスが書けるとともに、学生が満足できる授業が行えるよう授業内容や授業形態、課題の提示などを工夫していきたいと思う。

・学生参加型の授業は積極的に取り入れたと考えている。

・まず、第一にシラバス作成の重要性を再認識することができた。正直、今まで、シラバスの読み手である学生を意識してシラバスを書いていたかどうか自信がない。学生の目線を意識した上でシラバスを作成する重要性、作成方法、作成のポイント（コツ）を2日間で実習を通して知れたことは有意義であった。第二に、学生参加型の様々な授業方法を知ることができたこともありがたかった。コミュニケーション能力の向上をはかるための現在の英語授業にとってアクティビティは欠かせない。グループメンバーからも様々なアクティビティ情報を得られたこともよかった。最後に、成績評価の仕方を改めて考えさせられたことも有意義であった。いろいろな角度からの評価、また、学生にとって分かりやすく公平である評価を心がけたい。ワークショップで得たことを実際のクラスで応用できるよう十分に時間をかけてレッスンプランを立てることを今後の目標としたい。

・これまではシラバス作成や15回の授業の組み立てを自己流でおこなっていたが、本ワークショップで授業組み立て方法やシラバス作成方法のポイントを学ぶことができた。また、グループワークを適宜実施することで、授業構築の訓練になった。ここでは、様々なバックグラウンドをもった教員と話し合うことで、様々な視点を補うことができた。今後の教育実践では、早速、来年度のシラバス作成に適用してみたい。また、演習等でグループディスカッションの方法を取り入れられないか検討したい。

・1) 授業にあたり、私はこれまでは専ら質的保証（内容の準備）のために多くの時間を割いてきた。分かり易い、あるいは学生の集中力を増すための授業技法というものには、率直に述べてほとんど関心がなかった。しかし、今回のワークショップに参加し、全学挙げての“授業サービス技法”の体得に、莫大な力が注がれていること、重きがおかれていることに驚かされた。2) 本合宿において、時間を割いて説明されたことではなかったが、頂いた資料の中にあつた、レポートの評価のための「ルーブリック評価法」は、理論的に妥当な優れた情報整理法であると感じた。10月から始まる実験レポートの客観評価のために、是非活用したい。

・学生どうしのコミュニケーション、意見交換といった学生参加型の授業を行うことの重要性を自分自身が体験できたことが一番良かったと思っています。実践の場では、講義終了後にグループ学習やディスカッションを取り入れていきたいと考えています。

・ワークショップでは、学生主体のグループワークやプレゼンの方法について学びました。それを受けて考えたのは、カリキュラムとしての授業間の連携の重要さでした。グループワークやプレゼンは学生が主体的に学習するうえで効果的な授業方法だと思います。一方で、それをある授業でどの程度実施するかは決定するうえでは、他の授業とのバランスが重要だと思います。例えば、ある学生が受講している授業の半分以上で、準備に多くの時間がかかるプレゼンが含まれていた場合、その学生にとってかなりの負担になり、逆に学習が阻害されてしまうことも考えられます。自分が授業方法を考えていくうえでは、同時期の他の授業について目を向けながら考えたいと思いました。

・実際にシラバスを書いて授業を行う予定はまだないが、今後シラバスを書くときには目的・目標設定が重要であることが理解できた。目的・目標を設定することで方向性が決まり、授業計画がより具体的になると感じた。やってみたい点：現在担当している実習指導でも、実習全体としての目的・目標はある。しかし、抽象度が高いので、自分が担当するグループの学生に何を学んでほしいかを再度考えたい。実習全体の目標に対応しながら、観察可能な行動という具体的な目標を設定することで、学生の評価にもつなげたい。

・グループディスカッションなどを導入して学生の学習意欲を向上させる大切さを学んだので、講義などで取り入れたい。また、シラバス作成では到達目標を明確にし、学生目線で設定し、それが成績評価ときちんと繋がるようにすることを心がけたい。そして、授業の形態は学年や人数などでも変化しうるので、考慮して授業計画に臨みたい。

・ワークショップを受けて学んだことは、シラバスの目標設定欄と成績評価をリンクさせること、アイスブレイクの手法、大規模な（受講生の多い）授業であっても学生参加型の講義形式を取り入れることができること、などでした。これまで、シラバスの書き方に気を配ったことが少なかったことを反省すると共に、授業規模によらず学生を参加型の授業が考えられることなど、初めて知ることができました。ありがとうございます。アイスブレイクの手法など、さっそく先日のオリエンテーションで使わせて頂きました。来季の授業シラバスを書くときにはシラバスの書き方にも、今回学んだ内容を見返りたいと思います。

## 6. 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・とてもゆったりとした環境で、準備物もまた、飲み物までご用意くださり大変充実した研修ができたと思います。時間的な制約があり、大変あわただしく過ぎた二日間ではありましたが、時間の設定はどんな場合でもしなければならず、そのことについては、長くすればまた別の意見が出てくることであろうと思っています。A グループは、互いの良さを発揮することができたのではないかと思います。とても考えられたグループ編成であったと感じました。至れり尽くせりの研修会をしていただき、本当にありがとうございました。授業に生かせるよう頑張りたいと思います。

・最初は不安でいっぱいでしたが、あれだけの短期間でよりよい授業作りのエッセンスを再確認でき、とても有りがたかったです。教授法などを履修していたのですが、眠っていたテキストを再び開き復習するよいチャンスを与えていただきました。ワークショップの準備をされた担当者の皆様のおかげで非常に有意義な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。可能であるならば、大学教育に関わる全教員が積極的に受講すべきワークショップだと思いました。

・題材の内容にトラップ（お遍路に宗教）をしかけておく、必然性が理解できない。そもそも宗教に気をつけるという観点は、私の専門には関係がなし、ほとんどの教員には関係ないことでしょう。また関係がある教員は気をつけなければいけないことをすでに知っているでしょう。お題を楽しませるという目的でトラップをしかけているならば、さらっと説明していただければわかる。したり顔で説明されて非常に不愉快だった。また講師に理系の教員も配置しておくべきでだと思った。なぜならば香川大学は半数が理系の学部であるため、受講生の約半数は、理系の教員となる可能性が高いためである（今回も理系が7、文系5）。私の印象では、文系の教員のスライドには文字が多すぎる。あの文字列の中でどこが重要なかがわかりにくい。説明する内容によっては仕方がないのかもしれないが、話すことをすべて書くのではなくて、ポイントを箇条書きにするとか、もう少し工夫できるのでは？またモバイルルーターなどでネットが使える環境を整備して欲しかった。

・特になし。講師ならびに関係事務の方々のお陰をもちまして、有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

・ワークショップとして貴重な時間をいただき、ありがとうございました。他の学部の先生と授業について話し合うのは、大変有意義なものでした。また、講義部分についても、自分の授業や教育観を考えるよいきっかけとさせていただきました。一方で、講義やグループワークの際に、一方向的な進行の仕方になっている点には、やや疑問を感じる時もありました。もちろん、新任教員の研修会ですし、時間のコントロールを考えれば、一方向的にならざるを得ないのだと思います。ただ、講義の内容やグループワークでいただいたコメントに対して、疑問に思う部分もありましたので、それを表明できる機会があってもよかったのではないかと思います。ワークショップの目的にもよると思うのですが、個々の教員がもつ教育観や方法論について、双方向的に吟味するような形式もあり得るのではないかと思います。

・事前アンケートの問5と6について、あまり触れられることなく終わったことに疑問が残りました。

・日間、お世話になりました！ワークショップは、グループワークのタイムリミットも早く、忙しく感じるスケジュールでしたが、それがかえって、グループ間での協調性を高めたり、集中力を高める効果があったのではないかと感じています。有意義な研修になって良かったです。本当にありがとうございました。

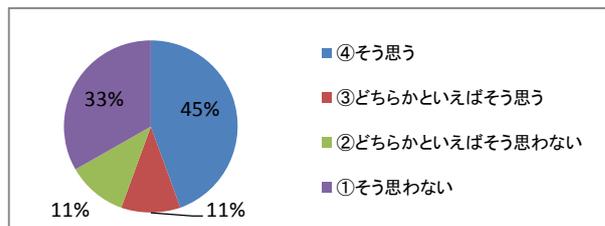
## 平成24年度 新任教員FDワークショップ アンケート集計

## 1. 参加者ご自身について

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)  
別紙参照

## 2-1 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

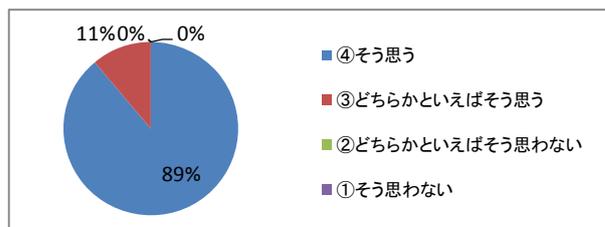
	度数	割合
④そう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思う	1	11.1
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	3	33.3
	9	100



## 2. 研修参加への経緯について

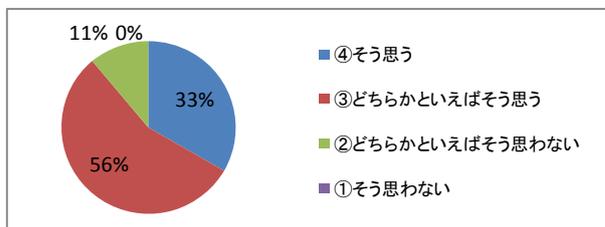
## 2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	度数	割合
④そう思う	8	88.9
③どちらかといえばそう思う	1	11.1
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



## 2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

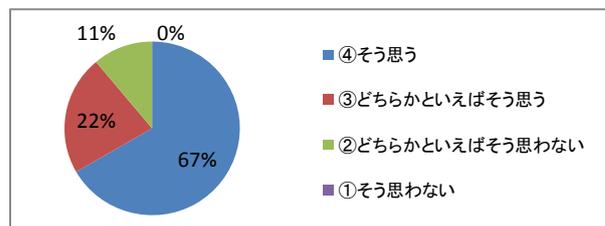
	度数	割合
④そう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



## 3. 研修プログラムの設計について

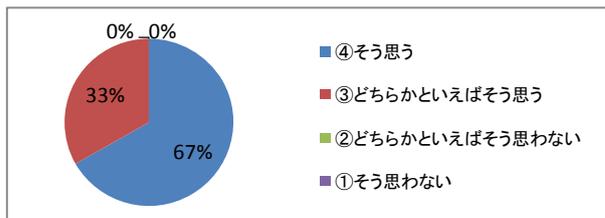
## 3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	22.2
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



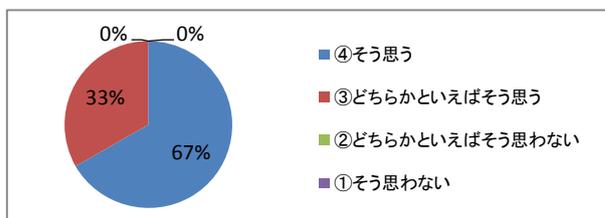
## 3-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



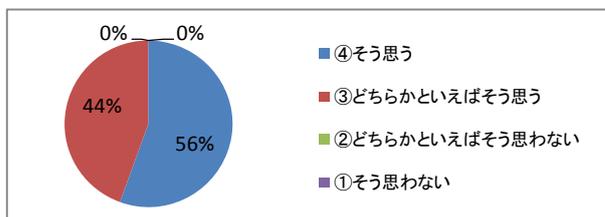
## 3-3 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



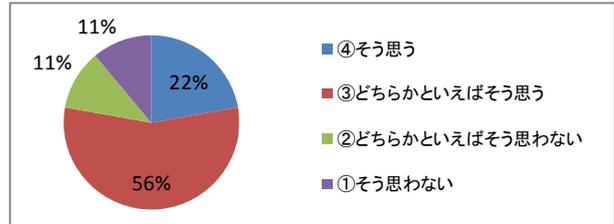
## 3-4 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	度数	割合
④そう思う	5	55.6
③どちらかといえばそう思う	4	44.4
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



3-5 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

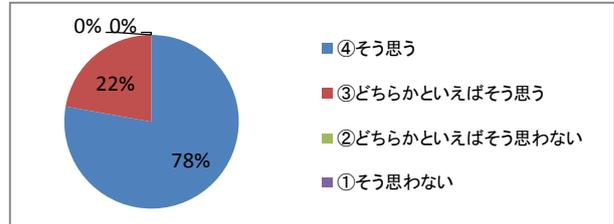
	度数	割合
④ そう思う	2	22.2
③ どちらかといえばそう思う	5	55.6
② どちらかといえばそう思わない	1	11.1
① そう思わない	1	11.1
	9	100



4. 研修スタッフについて

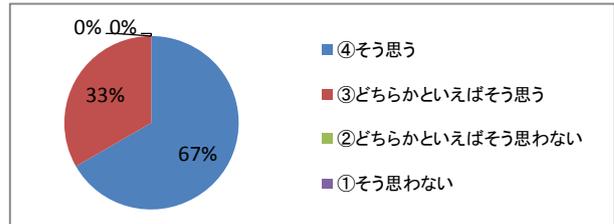
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	7	77.8
③ どちらかといえばそう思う	2	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



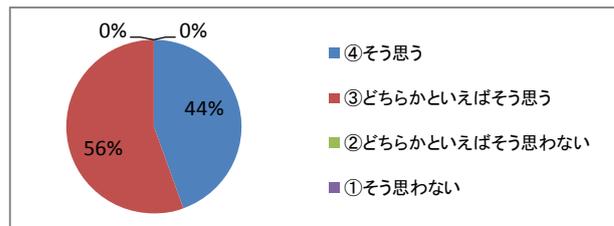
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	度数	割合
④ そう思う	6	66.7
③ どちらかといえばそう思う	3	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



4-3 講師の用意した教材は分かりやすかった

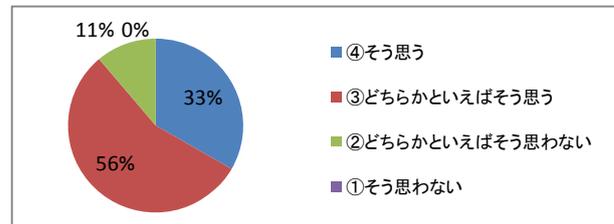
	度数	割合
④ そう思う	4	44.4
③ どちらかといえばそう思う	5	55.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



5. 研修成果について

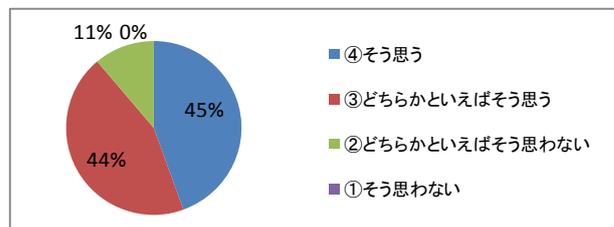
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	33.3
③ どちらかといえばそう思う	5	55.6
② どちらかといえばそう思わない	1	11.1
① そう思わない	0	0.0
	9	100



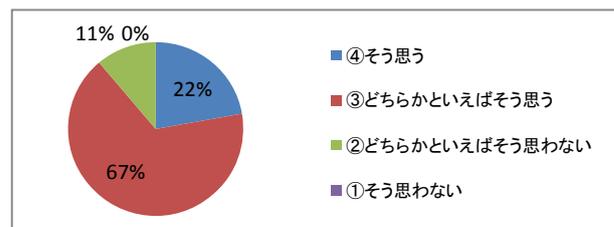
5-2 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	44.4
③ どちらかといえばそう思う	4	44.4
② どちらかといえばそう思わない	1	11.1
① そう思わない	0	0.0
	9	100



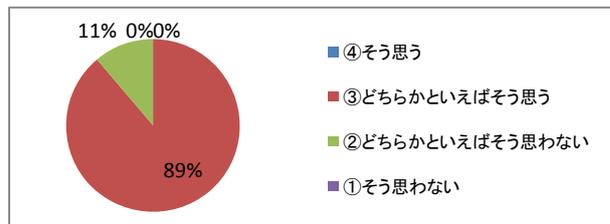
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④ そう思う	2	22.2
③ どちらかといえばそう思う	6	66.7
② どちらかといえばそう思わない	1	11.1
① そう思わない	0	0.0
	9	100



5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

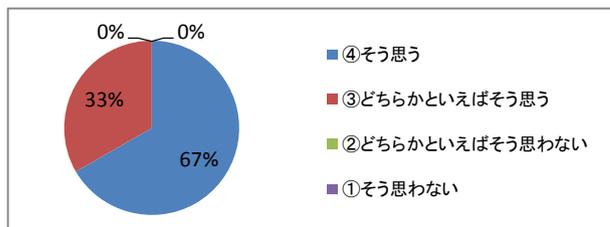
	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	8	88.9
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



5 受講してよかったと思われる点を、具体的にお書きください  
別紙参照

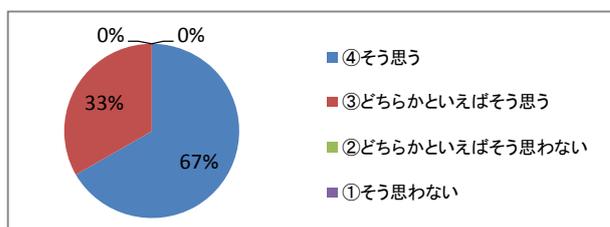
6-1 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



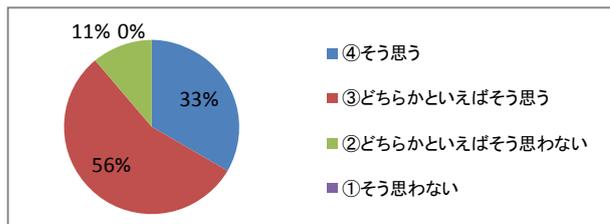
6-2 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



6-3 関連する研修を受けてみたい

	度数	割合
④そう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



6 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。  
別紙参照

6 研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。  
別紙参照

## 7. FD企画について

今後高知大(高知県内)で実施するFD研修について、希望するものがあればチェックを付けて下さい。  
その他の場合、具体的にお書き下さい。  
別紙参照

1-(1). 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)

- ・ 具体的な講義の進め方と成績評価のやり方
- ・ 授業の組み立て、構成、スキル、効果的な教授方法(講義内容、人数、目的に応じた方法)
- ・ 話術、各種仕掛け
- ・ 授業の組み立て方
- ・ 授業全体で目的、目標を達成できるような構成能力
- ・ 授業計画案の作り方 学生のやる気を起こす講義の組み立て方
- ・ 話法など学生の参加意欲を高める方法。今回は無かったが大学院生教育をどうするかも大事
- ・ シラバスに関する知識 いくつかの講義のやり方 学生の立場に立った進め方
- ・ わかりやすい配布資料の作り方、有効的なパワーポイントの使い方、

5. 受講してよかったと思われる点を、具体的にお書きください

- ・ シラバスの重要性が理解できた。いろいろな講義に関するスキルを体感できた。
- ・ シラバス作成の基本的知識が得られた。様々な仕掛けをされていたのを体験できた。→(仕掛けによって自然と引き込まれた。熱意を感じた。)ことを実感できた。
- ・ シラバスについて理解が深まった。授業を構成するにあたっての仕掛けのバリエーションが増えた。
- ・ シラバスのつけ方がわかった
- ・ シラバスの重要性、特に目標設定の大切さを知った。人文系の様子を少し知ることができた。
- ・ 授業の進め方、シラバスの書き方を様々なグループを通して知ることができた。
- ・ 今までGWの進め方が分からず、導入する気がなかったが、前向きになれた
- ・ 横のつながりができた
- ・ 今まで自分なりに書いていたシラバスの書き方や重要性を知れた。実際に授業に使えるような授業進行の工夫や成績評価の仕方を学べた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

- ・ シラバスをグループで作成することが少ないと思いますが、今回はグループで作成しましたが、本来は1人1人が作製する方が良いのではないのでしょうか。
- ・ 2日間にして、1日目の終了を19:00ぐらいにしてほしい。
- ・ いろんな仕掛けがあつてよかったと思います。今後もいろいろ試されて下さい。
- ・ 必要な知識は一度につめこんでほしい。その後にWG的なことをした方がよい。
- ・ 講師の先生方のプロフィールを最初に聞いたかった。
- ・ この研修は適当な長さと思うが、時間が長いと敷居が高く、前半後半に分けて半分受講できた方がよい
- ・ 評価の実例の紹介
- ・ 事前、ないしは最中に参加者の疑問や知りたいことを聞いて、すべてには無理でも、それらに答える時間がもっとあればよかった。

6. 研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を具体的にお書き下さい。

- ・ 演習を1人1人にやらせていたが、GWで実施してみようと思います。
- ・ ワークシート, グループワーク
- ・ シラバスの作成
- ・ 演習授業において、GW。
- ・ シラバスの新規作成
- ・ シラバスの書き方

7. 今後高知大(高知県内)で実施するFD研修について、希望するもの

- ・ Webページ簡単作成法
- ・ HTMLによるWebページ作成法
- ・ ルーブリック評価講習 (2)
- ・ 学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方
- ・ PowerPoint活用講習
- ・ 能動性を引き出すプレゼンテーション講習 (2)
- ・ 能動性を引き出す授業の進め方
- ・ 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン
- ・ ALCネットアカデミー利用講習
- ・ 授業改善個別支援(授業コンサルテーション)
- ・ 授業改善個別支援(アクションプラン作成) (2)
- ・ 授業デザイン(インストラクショナルデザイン)
- ・ TBL: チーム基盤学習で授業効率・成績UP (2)
- ・ 90分しゃべり続けても大丈夫! 発声法入門
- ・ 聴衆が理解しやすい話しの組み立て講習
- ・ 初回授業ですべきモチベーションの上げ方
- ・ 授業の最初にすべき事: サンデル教授の秘密 (2)
- ・ 初回授業ですべきモチベーションの上げ方
- ・ 分かり易い説明のためのプレゼンテーションのコツ
- ・ 能動性を引き出すファシリテーション研修
- ・ 英語による授業のやり方
- ・ 分かり易い説明のためのプレゼンテーションのコツ
- ・ PowerPoint操作入門(資料作成とプレゼンテーション)
- ・ オンライン学習支援システム入門(グループ作成とアンケートの実施)

## 次世代リーダー養成研修実施要項

## 1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

## 2. 達成目標

## 【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

## 【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

## 【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

## 3. 開催日（期間）

**（第4回） 平成25年 1月24日（木）～26日（土）（高知大学・高知工科大学）**

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成24年度の開催予定

（第1回） 平成24年 6月21日（木）～23日（土）（愛媛大学・松山大学）

（第2回） 平成24年 7月19日（木）～21日（土）（徳島大学・四国大学）

（第3回） 平成24年11月15日（木）～16日（金）（高松テルサ）

## 4. 場所

高知県高知市曙町二丁目5番1号

高知大学

高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学

## 5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第4回）日程表」のとおり

## 6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
  - ・各機関の長が推薦する者。
  - ・SPOD加盟校の職員。
  - ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、参照してください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
  - ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

## 7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

## 8. 講 師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤慎二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田一恵 他

## 9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

## 10. 主 催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

## SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）  
 実施日：平成24年10月17日（水）～10月19日（金）  
 実施会場：愛媛大学校友会館2階（サロン）  
 アンケート回答者数：44名

## 1. 参加者ご自身について

## (1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	42	93.3
② 短期大学	1	2.2
③ 高等専門学校	2	4.4
④ その他（ ）	0	0.0
計	45	100.0

## (2) 所属先の設置者

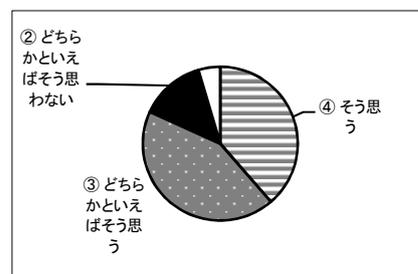
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	38	86.4
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	2.3
③ 学校法人	5	11.4
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	44	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）  
 別紙記載

## 2. 研修参加への経緯について

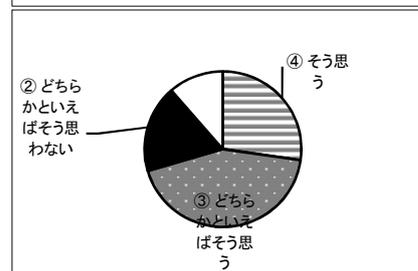
## (1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	38.6
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	6	13.6
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



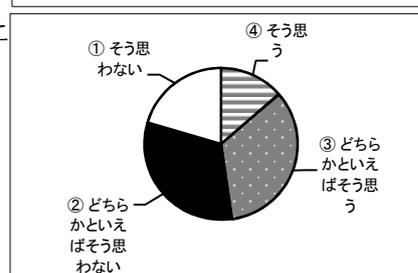
## (2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	12	27.3
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	8	18.2
① そう思わない	5	11.4
計	44	100.0



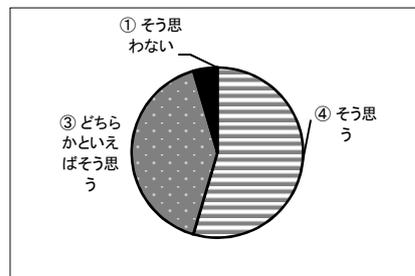
## (3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	13.6
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	14	31.8
① そう思わない	9	20.5
計	44	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

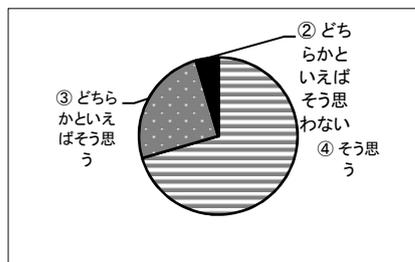
	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



3. 研修プログラムの設計について

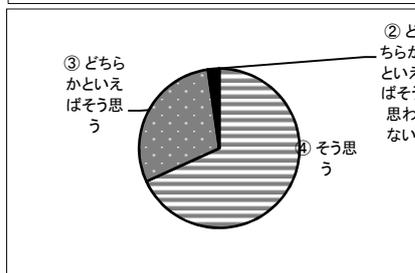
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



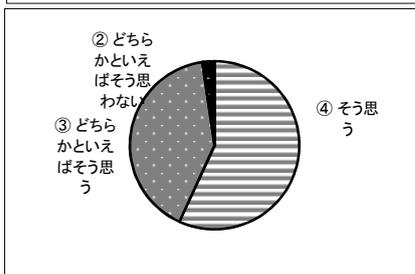
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	68.2
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



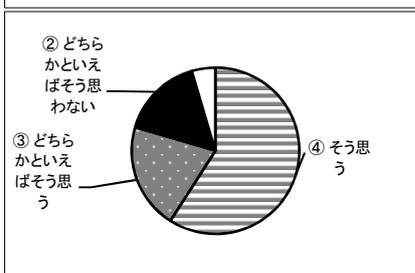
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	25	56.8
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



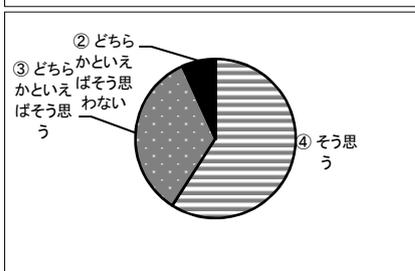
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	7	15.9
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



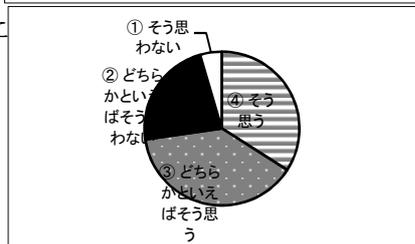
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



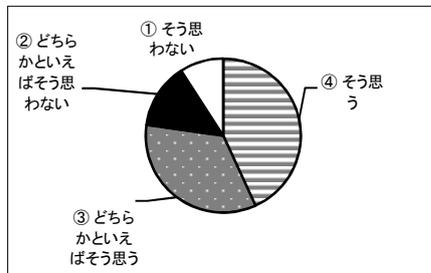
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	15	34.1
③ どちらかといえばそう思う	17	38.6
② どちらかといえばそう思わない	10	22.7
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



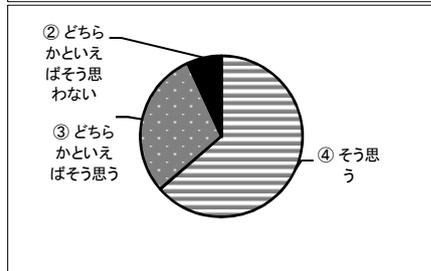
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	6	13.6
① そう思わない	4	9.1
計	44	100.0



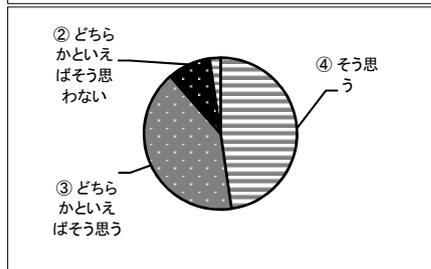
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	28	63.6
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

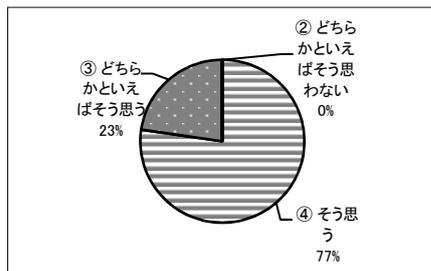
	回答数	割合
④ そう思う	21	47.7
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	4	9.1
① そう思わない	1	2.3
計	44	100.0



4. 研修スタッフについて

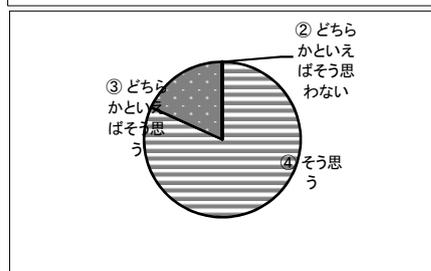
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	34	77.3
③ どちらかといえばそう思う	10	22.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



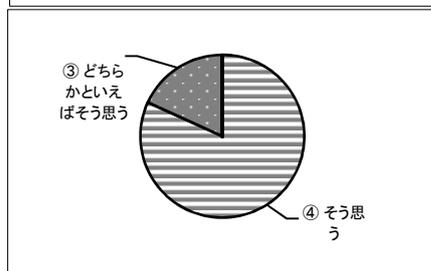
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



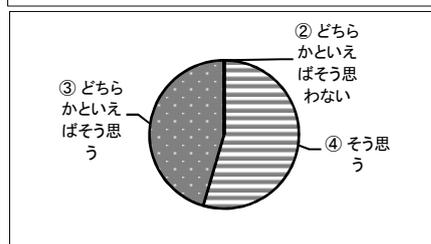
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



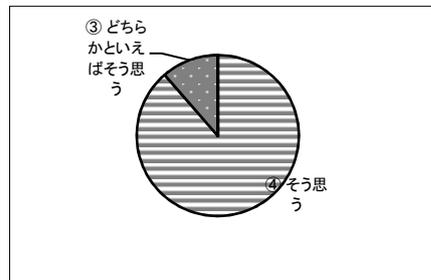
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

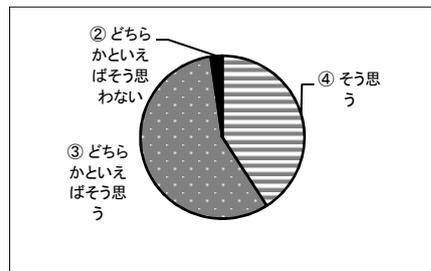
	回答数	割合
④ そう思う	39	88.6
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



5. 研修成果について

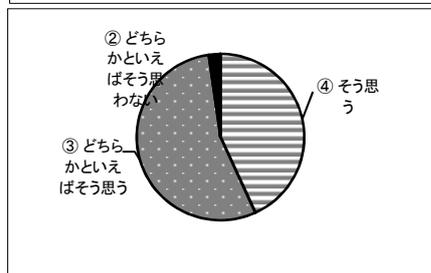
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	18	40.9
③ どちらかといえばそう思う	25	56.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



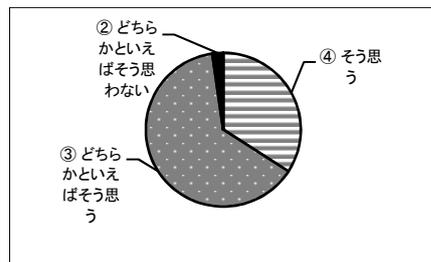
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	24	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



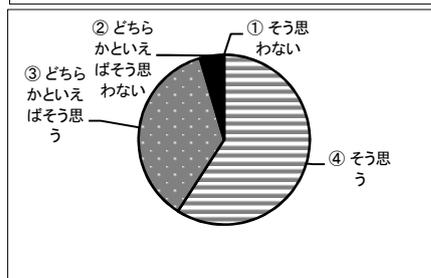
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	15	34.1
③ どちらかといえばそう思う	28	63.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	16	36.4
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



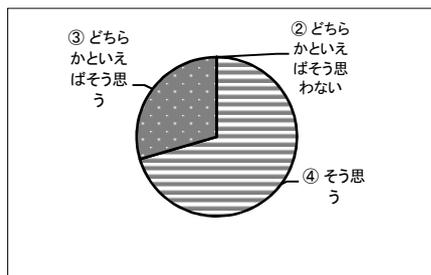
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

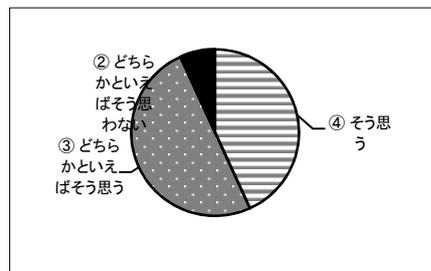
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



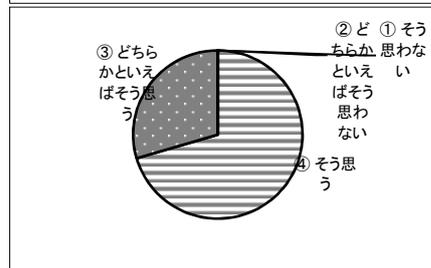
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	22	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



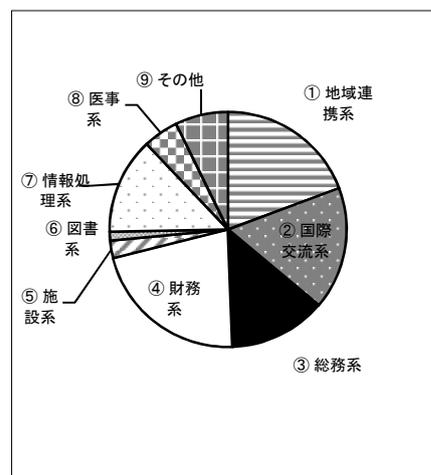
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	16	19.3
② 国際交流系	14	16.9
③ 総務系	11	13.3
④ 財務系	18	21.7
⑤ 施設系	2	2.4
⑥ 図書系	1	1.2
⑦ 情報処理系	11	13.3
⑧ 医事系	4	4.8
⑨ その他	6	7.2
計	83	100.0



その他の記述内容

- ・ 人事・労務
- ・ HP作成入門・パワーポイント・イラストレーター等
- ・ カウンセラー
- ・ 法律・規則の解釈
- ・ 大学全入時代に入り、どのように各大学が生き残っていくか
- ・ 人事系

## 【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ コミュニケーション能力 (13)  
(相手や手段に応じた言葉遣いや態度等, 特に上司と)
- ・ プレゼンテーション能力 (12)  
(話の組み立て方, 要点のまとめ方, 作成・発表スキル, 人にわかりやすく説明する能力, 時間内に内容をまとめて把握し, それを自分の表現で伝える)
- ・ ビジネスマナー (8)  
(敬語, 電話対応, メモのとり方, 窓口マナー, など)
- ・ パソコンスキル (6)  
(Word, Excel, PowerPoint, Access, イラストレーター, ホームページ作成, 情報処理能力)
- ・ ビジネス文書作成力 (5)
- ・ リーダーシップ (3)
- ・ 説明力 (3) (上司や先輩に分かりやすく業務の報告や説明をするときに必要)
- ・ 傾聴力 (2)
- ・ フォロワーシップ (2)
- ・ 話す力 (2)
- ・ 調べる力 (2)
- ・ 対話力 (自分の意見をしっかり要点を押さえ, 相手に伝わるように話すこと)
- ・ 弁論力
- ・ 英語力
- ・ 計画を立てて取り組む力
- ・ 積極的に意見を出す力
- ・ 仕切る力
- ・ 人間力
- ・ 論理的に考える力
- ・ 上手に頼める力
- ・ 意見調整能力
- ・ 基礎的な研修全般
- ・ 会計などの数字を見るスキル
- ・ 大学職員としての知識
- ・ 大学に関する知識
- ・ 人を知ること
- ・ 社会の状況を知る力
- ・ 自分の状況を把握する力
- ・ 係員・係長のチームでの仕事がうまくいく様, ほうれんそうを徹底する。
- ・ 業務知識を増やす。
- ・ マナーを含めて, 誤っていた点に多く気付かされた。自分は雑だったと実感できた。
- ・ 広い視野
- ・ 大学・課の方針を意識して仕事する
- ・ 主体的に考えて動くこと

- ・ 学生，先生への対応の仕方について
- ・ ミスを減らす慎重さ
- ・ キャリアについて考える

5. 受講して良かったと思われる点を，具体的にお書き下さい。

- ・ 他大学職員との交流機会（14）
- ・ ビジネスマナー，コミュニケーションの重要性を再確認できた。（4）
- ・ 自分にはない意見を共有することができたこと。（3）
- ・ 今さら人には聞けない一般常識（マナーや文書作成）を学べた。（2）
- ・ 文書の作成について，議事録の書き方等，大変勉強になりました。（2）
- ・ 普段の自分を振り返る機会になってよかった。（2）
- ・ 他大学の同世代の職員の方の考えを知ることができた。（2）
- ・ 第一印象の大切さを実感しました。
- ・ 現在自分のしている仕事（電話対応や窓口対応）の改善すべき点がはっきりと分かった。多種多様に渡るスキル・知識を享受できたこと。
- ・ 知識はいろいろと教えてもらえたので，後は自分次第で身につくかどうかが決まると思っています。出来るだけ努力しようと思っています。
- ・ 講師の方の説明は，すごく分かりやすかった。
- ・ ストレッチ，良かったと思います。
- ・ 実践レベルでの研修ができたので，仕事で役立つと思う。
- ・ 今後仕事をしていく上でのモチベーションが上がった。

**【グループワークについて】**

- ・ グループワークが中心だったので，他大学（高専）の人とも関わることができ，仕事の内容に関わらず，よい考えを教えてもらえた。
- ・ ワークが多く，理論でわかっているけど，行動は難しいという実感が得られた。
- ・ グループが入れ替わることにより，役割が変わるので良かった。
- ・ 話すのが苦手だが，そんな中，話す機会がたくさんあったから。
- ・ 発表する（自分の考えを述べる）ことが多く，この3日間で話すことに苦手意識が薄くなったと思う。
- ・ 人前で自分の意見を述べられる力を養えた。

**【プレゼンテーションについて】**

- ・ プレゼンの方法を学べた点
- ・ プレゼンテーション入門を受講して，心が開きました。
- ・ プレゼンテーションで人に分かりやすく伝えるにはどうすべきか，考えるきっかけになった。
- ・ 人前で話す度胸が少しいた。
- ・ プレゼン，グループワークの機会はルーチンワークには少ないため，自分のスキルアップの良い経験になった。
- ・ プレゼン等普段の仕事において使えるようなテクニックがあって良かった。
- ・ 人前で話す難しさと，自分のスキルの無さに気づくことができたこと。
- ・ プレゼンテーション時の評価をしてもらうことはなかなかないので，早い時期に自己の

改善点を知れたこと。

【キャリアについて】

- ・ 今まで仕事をしてきた中での良かった点、悪かった点を発見できた。自分のキャリア形成について考える良い機会になった。
  - ・ 自分のキャリアを振り返り、自分の目指す場所を認識することができたこと。明日からすぐに行動を変えてゆけるという希望が湧いているので、参加して良かった。
  - ・ 自分に不足している点がたくさんあることを再確認でき、改善していこうと思えたこと。
  - ・ 明日から即実践出来ることを教えて頂き、業務に活かしていきたいと思いました。
  - ・ 社会人として身に付けるべきマナーを学べただけでなく、自分が大学職員になろうと思ったきっかけ等自分を見直す良い機会となった。
  - ・ 自己分析をする事が出来た。
  - ・ 社会人や大学人の基礎ももちろん知ることができたが、自分自身についてもよくわかりました。強みは伸ばし、弱点も改善できると知ってモチベーションが上がりました。
  - ・ 何が自分に足りていないかわかった。
  - ・ 自分の弱い部分を再確認できた。これから少しでも改善できるよう意識していきたい。
  - ・ 普段の業務の中では気づけなかった、苦手なことなどが露骨に表れて良かった。改善するように努力したいと思った。
6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・ 予想を超える人数だということで、教室が狭かった点だけ、少し気になった。参加して良かったです。ありがとうございました。
  - ・ 作業テーブルをもっと大きく（もう1回りほど）していただけたら、よりグループワークがしやすかったような気がします。（ちょっとグラグラしていて、書きづらかった）
  - ・ 机の位置が、少し良くなかった気がする。斜めに配置されると、逆に体が疲れる気がした。
  - ・ グループでプレゼンする時に、隣のグループとのスペースが狭かった。
  - ・ 部屋が少し狭く思った。また、となりが学長室かと思うと、気をつかった。
  - ・ 日光が当たっている人がいて、気の毒だった。
  - ・ あまり関係ないかもしれないのですが、窓際の席がすごく寒かったです。
  - ・ 最終日は移動時間を考慮して、午後までが良い。  
（徳島の人達は帰宅が22時頃になるそうです。）
  - ・ 内容的には、入社後1～3ヶ月以内には学びたかったというものが多かった。特にマナーやコミュニケーションなどは早期に勉強しておくべき内容。
  - ・ 休憩の回数をもう少し増やしたら、受講者の集中力が続くと思います。
  - ・ 内容はとてもよかったが、連続で3日間は少しつらかった。
  - ・ 職員の方が講師をされているので、もっと経験談とかも交えてほしかった。
  - ・ 講義のフィードバックをすれば、細かい点が改善できるのではないかな？
  - ・ 柔軟な発想と独自の工夫を期待したい。（1～2分計るのにタイマーを使用する必要はあるのか？腕時計で十分では？何度も導入にアイスブレイクを行う必要はあるのか？）
  - ・ 時々、指示を理解できない（ついていけない）時があったので、指示は2・3回言って頂けた方がありがたかったです。
  - ・ プレゼンテーションやキャリアについての講義は、もっと時間が欲しかったです。
  - ・ グループワークにもう少し時間をかけたい。

- ・ 研修の資料を持ち帰る入れ物があったらいいなあと思いました。
- ・ 配付資料が多すぎる気がしたので、もう少し少量にまとめていただけると助かります。
- ・ 基礎として身に付けるべき能力であるので、少しですが物足り無さもありました。
- ・ ストレッチよりもおもしろい話をして欲しかった。
- ・ アンケート用紙が初日に配られたので、探す手間がなくなるよう最終日に配っていただければ、有難いと思います。
- ・ 懇親会は大学内が良いかなと思いました。
- ・ 講師の方々、及び事務局の方々の対応は完璧だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 今回参加し、ワークが多く、他大学の人と協力して何かを作り上げる作業を行えたので、とても良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・ ストレッチは、全体でやった方がやりやすいので、良かったと思います。
- ・ グループワークや実践が多く、非常にわかりやすく満足しています。
- ・ 内容はとても素晴らしいものだったと思う。
- ・ これからの自分のスキルアップ、人生をよりよくするのに良いきっかけとなる知識を得られたと思います。後は自分次第ですが、1つずつ変えていきたいです。